

昭和41年度研究集録

**特別教育活動の本質をふまえた
望ましい指導計画と実施計画**

昭和42年3月9日

東京都小学校特別教育活動研究会

研究集録の発刊によせて

東京都小学校特別教育活動研究会長 齋藤敏夫

本会研究集録の第3集を発刊できるようになりましたことは、本会の専門部を構成する3部門、いかえれば学級会、児童会およびクラブ活動の各部に所属される幹事の方々の大変なご労苦によったものであり、これらの方々に心から敬意を表し、感謝申し上げる次第です。

本会は、設立当初から「特別教育活動の本質をふまえた指導計画と実施計画の在り方」を研究主題として、組織的な研究を続けてまいりました。そして最初の年には「指導計画と実施計画の関連の問題」を、第2年目には「指導計画に関する諸問題」を、そして今回は「望ましい指導計画と実施計画について」それぞれ研究を進めてまいりました。

これらの一連の研究活動には、ふたつの特徴があります。そのひとつは、わたくし共の立場から考えますと当然のことではありますが、あくまで現場で実践された成果とか記録とかを検討し、これに広く東京都全体という立場とか視野から望ましい姿のものを指向してきたことでもあります。繰り返して誠に恐縮ですが、あくまで現場にある問題に立脚した研究であるということです。

そして、第2の特色は、それぞれの各部門が、特別教育活動の本質とも考えられる「自発的、自治的な態度」をもって、この研究を進められたことです。とくに、本年度の研究はまったくそれぞれの部門の主任の方を中心とした、文字通りの自治活動であったといっても過言ではありません。

現場にある問題に立脚した研究であることは、ここで究明されていることがらが、みなさんの学校問題として考えることができる場合も多いのではないかと思います。もしも、それぞれの学校で地域の実情や学校の実態が異りながらも、指導計画を改善したり、実施計画の問題などについて考究しなければならないことなどが生じた際などは、この集録を参照していただくことができれば、この集録の使命の大部分が達せられることとなります。いろいろの事情で、簡単にまとめられていますが大いにご利用いただくことをお願いいたします。

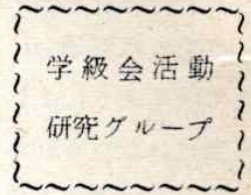
最後に、この研究を進めるに当って、資料などをご提出いただいたり、いろいろご便宜をはかっていただきました、それぞれの学校に心からお礼を申し上げます。

目 次

1. 学級会活動	2
2. 児童会活動	30
3. クラブ活動	51
4. 編集後記	74

I 学級会活動の指導計画をどのような手続きによって

実施計画を作ったらよいか



1. まえがき

学級会活動の研究グループは、主題の解明に際して、各区内の実態を話し合った。それによると、区特活研究部が中心となって「指導計画の試案」「指導計画作成の手引き」の形式で、学級会の指導計画が整備されていたり、学校独自の指導計画が用意されていることがわかった。しかし、指導計画が有効に活用されているだろうか、疑問に思われることが現況のようだ。

なぜ指導計画が活用されないのだろうか、数回論議を重ねた。その結果、教科の指導計画は、緻密にできていて、1時間の授業展開にそのまま活用することができる。特活の指導計画は、おおまかで1時間の活動は、児童が主体となって、更に、具体化の手続きをしないと、効果的（特活の本質に合った）な学習が展開できない。そのような繁雑さのためと、具体化の方法が十分理解されないためであろうと考えられる。そこで、各自の実践記録を持ち寄り、実施計画をいつ作成するのか。どんな内容を盛り込むのか。どんな手続きが必要なのか。と検討し合った。そして、実施計画については、つぎのような理解に立った。

「特別教育活動における指導計画は、おおよそのわくぐみといったものであるから、その実施にあたっては、児童とともに、いっそろ具体的な実施計画をたてる必要がある。児童はここで自発的な要求を持ち出し、学校や学級の生活に関する諸問題を解決するために必要な、実践活動の具体的計画を立て、話し合いによって決めることになろう」と指導書に述べられているように、実施計画は、発達段階や学級の事情などによって差はあっても、一般的には、つぎのような条件があるだろう。

- ① 児童自身の手で、主体的に作成される計画である。
- ② 児童の自発的な要求をもちこんだ、具体的な実践活動計画であること。
- ③ 指導計画によって示されている、学校としての基本的な計画の中で作られるものである。

という、基本的な理解に立って、各自の実践記録をまとめた。

- ① 指導計画の抜粋
- ② 実施計画作成の手続き
- ③ 実施計画

- ④ 指導案（1時間の授業案） ⑤ 実践記録 ⑥ 指導後の反省

のような構成によって、1時間の学級会活動の実践例を素材として提供することにした。
読む人にそれぞれ意味づけてもらい、よりよい実践を期待したい。

（港区・桜小 渋谷 昇）

集会活動（一年）

1. 指導計画

- ねらい 教師を中心に、楽しい集会活動ができる。
- 指導のめやす

	計 画	実 践	備 考
集 会 の 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ○教師といっしょに、楽しい集会の計画をたてる。 ○いろいろな役割のいることに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師といっしょに、仲よく楽しくできる。 ○人の前でも、はずかしがらずにやることができる。 ○仲良くやることによって、級友との楽しみをますますよくなる。 	年間6回

2. 実施計画作成の手順

- 10月中に集会活動を開く計画であったが、その機会がなかった。そこで11月中に集会活動を実施するよう機会をまっていた。
- 11月9日（水）音楽の時間のあと、「先生N君は音楽の時間、ハーモニカを忘れて、遊んでばかりいました」とR君が報告にきた。「〇君もです」。

先生、「N君、ハーモニカを忘れちゃいけないね……次の時間は忘れないでしっかりやってくださいよ」。「はい」

先生 「先生も一度みんなのうたが聞きたいなあ」。（音楽は専科）

S君 「いいよ」「Kさんは、じょうずです」。

先生 「それでは、みんなでおんがく会を開いて、聞かせてもらいたいなあ」。

みんな 「いいよ、いいよ」「ひらころ」の声。

ころした、話し合いの後、おんがく会を開く方法については、11月10日（木）の学級会の時間に話し合って決めることにした。

- 第3回目の、集会活動の実施計画を立てる。

3. 実施計画の作成（案）と記録

第14回（第1次）学級会活動（集会の活動） 11月10日4校時		
実 施 計 画	議 題	おんがく会をしよう。
	提 案 理 由	おんがく会をして、楽しくすごそう。
	話し合いの めあて	おんがく会のやり方と役割をきめる。
	司会・記録	担 任
画 計	話し合いの 順 序	1. いつやるか 2. どこで、どんなかたちですか 3. なにをだれとやるか 4. お客様はだれをよぶか 5. 係はどうするか 6. かざりはどうするか 7. 費用はどうするか
	記 録	1. 11月17日（木）第4校時 2. 教室でコの字です 3. 各班で1つ、好きな友と1つ （独唱、合唱、独奏、合奏） 4. みどりのおばさんをよぶ 5. 費用は10円（学級費から） 6. 係について 司会係 会場係 お客様係 プログラム係 かざり係 おやつ係

第1次の話し合いの後、第2次の実施計画を立案した。又同時に、プログラム係のところに種目を提出し、担任が中心になってプログラムを作成した。

第2次の実施計画 一 略 一（プログラム参照）

4. 学級会活動指導案

(1) 議 題 おんがく会をしよう。

(2) 議題設定の意義

- 児童も学校生活になれ、人間関係も広まり、自分本意になったり、自分の力をためそうとする。この時期に、集会活動の要求がでてくるのもとうぜんといえる。

かかる時期に、級友が協力して、楽しい会を計画することは、学級会に興味を持たせ

ると同時に、人間関係を深めることができる。

- 集会活動は、会そのものの楽しさよりも、話し合いの過程を重視することによって、低学年としての自主性を伸ばす基礎的な活動が期待される。

(3) 本時の活動(実施計画)

(4) 本時指導の留意点

- おんがく会を楽しくすることもたいせつであるが、それよりも、計画をたて、実施するまでの、係の役割・準備に重点を置き、全員で独創的に進めるようにしたい。
- 全員が無理のない仕事を分担し、楽しさの中で責任を果たすようにしたい。

5. 実践指導例

司会 きようは、おんがく会をすることについて相談します。自分でよく考えて話し合いをしてください。相談することは、こんなことです。(板書)

司会 「いつやったらいいでしょう」(ざわめき)

A 「あしたしたい」

B 「はい、準備ができないので、あしたはだめです」

司会 「準備のこともあります、学級会ですから、次の学級会の11月17日(木)にしてはどうでしょうか」

C 「いいです」

司会 「それでは、11月17日(木)にしましょう」

司会 「なにをするかについては、どうでしょう。各班で1つ、自分で1つやったらと思えますが」

D 「いいです」

E 「はい」「好きな人とやってはいけませんか」

司会 「E君のように、好きな人とやりたい人は手をあげてください」(おおぜい)

司会 「種目については、班で1つ、好きな人と1つすることにしませう」

司会 「こんどは、係をきめます」

話し合いの結果、前回のおたのしみ会の係より

「おやつ係」が新しく生れ、右の表のように、係と分担がきまった。

司会 「種目や係がきまりましたから、こんどは、各班

- いつやるか。
- なにをだれとやるか。
- かかりはどうするか。
- そのほか。(板書)

司会係	3班
会場係	1班
お客様係	4班
プログラム係	2班
かざり係	5班
おやつ係	6班

(板書)

で、なにをやるか、仕事はどうするかを相談してもらいます」(各班に分かれる)

司会 (10分後)報告してもらおう。

- 会場係(1班) 教室で机をコの字に並べます。
- プログラム(2班) 自分のやる種目がきまったら、坂本君のところへだす。
- 司会係(3班) はじめのことば,掛飛さん おわりのことば,上野君
司会,中山君
- お客様係(4班) てがみをかく人,菅野さん,鈴木さん
- かざり係(5班) 色紙で◎を作っかざる。また花をかざる。
- おやつ係(6班) おやつをかいに行く人,田中さん(250円)

以上のように報告され、全員で話し合いの後、決定した。

6. 指導後の反省

実践指導例 第2次 プログラム—45分—(4校時)

- 1学期の経験を生かし、司会もスムーズに進行した。
- 係の分担も無理がなく、伸び伸びと明かるく活動できた。
- 時間も予定通り進行した。
- 児童は活発に活動し、満足感をもった。
- 音楽会自身は幼稚だった。
- 予想以上に活動したと思う。

(品川・御殿山小 岡田定雄)

○ はじめのことば	掛 飛
1. かえるのろた……(ハーモニカ)…6	班
2. かあさんのろた……(ろ た)…清 ほか	
3. 日 の 丸 ……(ハーモニカ)…3	班
4. たいこぼし……(ろ た)…鈴木ほか	
5. かあさんのろた……(ろ た)…4	班
6. ペンギンさん ……(ろ た)…曾我ほか	
7. おうまのおやこ……(ハーモニカ)…坂本ほか	
8. 日 の 丸 ……(ハーモニカ)…5	班
9. ろんどうかい ……(ろ た)…佐伯ほか	
10. おうまのおやこ……(ハーモニカ)…2	班
11. かえるのろた ……(ハーモニカ)…内山ほか	
12. かあさんのろた……(ろ た)…1	班
13. も み じ ……(ろ た)…菅 野	
14. みんなでうたう……(校 歌)	
○ おわりのことば	上 野

係り活動（二年）

1. 指導計画の抜粋（区指導計画より抜粋）2年

(1) 学年の特徴

- 学級会の時間というものがどのようなものかおよそわかるようになる。
- 話し合いの司会に興味関心をもつようになる。
- 友だちの話しの内容をつかんで話し合うことができる。
- 一つの話題で話し合いを続けられることができるようになる。
- 話し合われたことがらについて賛成、反対の態度を示すことができるようになる。
- 話し合いのルールが守られるようになる。

(2) ねらい

教師と共に学級生活を楽しくするために学級の問題を話し合い進んで学級生活に参加し分担する仕事を行なうことによって自主的生活態度のめをのぼす。

- 集団生活の中での活動になれさせるようにする。
- 話し合いをすすめることにより自分たちで解決の必要な問題のあることに気づかせる。
- 学級内の身近かな仕事をみつけ分担し処理する係の活動ができるようにする。
- 教師と共に集会活動ができるようにする。

(3) めやす

① 話し合い活動

計画委員会……教師と共に議題案の中から議題を選びだすようにする。

議長……教師が司会する。教師の力をかりて一部司会する。かたよらないように指名する。グループの司会ができる。

記録……議題がきまったことの記録ができる。

提案……話したいことを自分なりの表現でみんなにわかりやすく話せる。

一般の児童……話を最後まできくことができる。わからないところを質問できる。賛成反対が言える。グループで考えることができる。

留意点……学年の後半になれば1時間（45分）の話し合いができるようにする。児童の議題をとりあげてやる。話しのすじみちをはっきりさせる。

② 係活動

③ 集会活動を省く

2. 実施計画の手順

「かかりのしごとをみんなで話し合う」という大きな議題で、学期のはじめに一回は話しあうことにしている。話し合うのは学期はじめである。この「かかりの仕事をみんなで話し合う」なかにはいろいろと係りからの議題もふくまれている。・係りの組織づくり ・係りの改廃 ・係りからみなさんへ、みなさんから係りへ、といったようなものが議題の中に含まれてくる。

この実施計画を作成するにあたっては、2年生ではまだ教師が司会もやっているのだから児童にはたしませられない。しかし、教師と一緒にになって係からの声をきいて、係りの中で問題のあるような係りは、児童を残していっしょに話し合い、次の学級会の話し合いにどんな話をするか相談させて実施計画のようなものを作成させる。

3. 実施計画の作成

- (1) 議 題 「係りからのおねがい、係りの人へのお願い」
- (2) 提案者 「花係り」
- (3) 提案の理由 「それぞれの係りから、係りの仕事はどんなことをするのかお互いに知らせあったり、助けあったりして、活発に活動して責任を果させ、自立的、自発的にやらせ、協力していく態度をつくらせる」
- (4) 話し合いの順序
 - お花係はみんなに話したいことをまとめておく
 - まとめたことを先生にみてもらい、その後黒板にかくか、朝の時みんなに知らせる。
 - お花係にききたいことをきく。
 - みんなからもお花係に話してあげる。
- (5) 資料の準備
 - いままでの記録を用意しておく
- (6) 議 長 教 師
- (7) 記 録 教 師

4. 実施計画作成上の留意事項

- 教師はつねに班、係り、個人と話し合う機会をもつようにして問題を採り、児童の立場にたって計画をたてる。

- 学級会の前日までに問題を3つぐらいにしぼっておく。
- 問題により集団での話し合いの計画を入れるようにする。
- 資料はこどもにできるものがあれば教師といっしょにつくらせるようにする。
- 児童が関心をもち理解しやすいものをできるだけ用意する。

5. 学級会活動の指導案

- (1) 議 題 お花がかりからみなさんへ
- (2) 提案者 お花係り
- (3) 提案の理由 教室の中に花をかざったり、枯れた花を始末するのは、花がかりだけではきれいにできないので、みなさんも協力してほしい。
- (4) 話し合いのめあて お花がかりからみんなにたのみたいことをみんなにはなし、このことについてみんなに協力してもらうようにする。
- (5) 話し合いのことがらと順序
 - ア お花がかりで、みんなにたのむことをまとめる。
 - イ まとめたことをみんなにはなし。
 - ウ しつもんをする。
 - エ みんなの話をまとめる。
- (6) 指導のねらい
 - ア 係り活動の内容を児童たちが理解し活発にさせる。
 - イ 児童達が相互に係り活動をするようにたすける（自治的、自発的に）
 - ウ 児童達が相互に係り活動の仕事を理解し、自分の学級を楽しいふんい気にし、また、このようなことが協力していく態度であることを理解させる。
 - エ 勝手に発言しないように気をつけさせる。
- (7) 指導上の注意事項
 - ア お花係はみんなが家からもってきて教室へ飾ればよいといったように一方的な発言はさげさせるようにしたい。
 - イ 発言はできるだけ一部の児童にかたよった発言のないようにしたい。
 - ウ 話し合いの順序をきめる際にこどもと一緒に教師が話し合いに加わる。
- (8) 評価の観点
 - ア 2年生なりの自治的な学級会の進行がみられたか。
 - イ お花係のいったことがみんなに理解されたか。

- (ウ) 話し合いを無理にひっぱっていきようとはしなかったか。
- (ロ) 欠点を言いあわなかったか。
- (オ) 本時のねらいからそれなかったか。
- (カ) 他人の表現をききとることができたか。

6. 話し合い活動の実践例

教師 これから学級会をはじめます。きょうの代は「お花がかりからみなさんへ」です。

花係の人ひとり、でてきてください。

花係 花がないときがあるのですがどうしたらよいですか。

かれた花をみつけたらすぐすててください。

一の側からじゆんにもってくるようにしたらよいと思います。

教師 花係にききたいこと、いいたいことはありませんか、あったらきいてください。

児童A 花をもってくるといいましたが、あしたからですか。

花係 はい。

児童K どのくらいもってくればよいですか。

花係 かびんも二つしかありませんからそんなにたくさんはいりません。

児童H 花がないときはもってこられません。

児童M 花はかってくるのですか。

教師 待ってください。たくさんききたいことがでできましたね。みんなにわかるように、

ひとつずつまとめていきましょうね。

T君もう一度いってください。

児童T 花をもってくるのはあしたからですか。

教師 それはさっき花係が「あしたから」といいましたね。

T君わかりましたか。

児童T 「はい」わかりました。

教師 花がないときどうするかといったのはH君ですか。

花係 花のないときはもってこなくてもいいです。

児童S お花はかってくるのですか。

花係 かってきてもいいですが、家からもらってきてもいいです。

児童S 花をみんなでもってきて花びんにさしていたら花係のしごとがなくなるのではないですか。

教師 S君のいったこと、花係の人わかりましたか。

花係 「はい」しかし、わたし達は水をとりにかえたり、枯花をすてたりします。

教師 そうですね、みんなに力をかりてやりますけれども、やっぱり花係が中心になってやらなければできませんね。みなさんわかりましたか。

それでは花係りの人もう一度、まとまったことを読んでください。

7. 指導者の反省

- 男女ともよく協力して水だけはよくやっているようだが、枯れた花をすてるということをあまりしない。係活動は不活発である。
- 全体に話しているという意識がまだかけているようだ。
- 花をもってくる方法をもろすこし花係と具体的に話しあっておけばよかった。
- 教室の美化ということまではまだまだ2年生の段階では無理のようであった。
- 買ってきてもよいかの質問がでたが、これは花係はよいと答えたが、金銭的な問題であるので父母との協力も考えておく必要がある。

(渋谷・常磐松小 三輪)

話し合い活動

1. 指導計画(話し合い活動)

指導の重点	<ul style="list-style-type: none">○ 集団意識を高め、学級の生活を向上させるための問題に気づき、自分たちで処理解決しながら生活ができるようにする。・ 学級内に生ずる諸問題に気づかせ、生活に役立つことを考え、話し合いによって自分たちの力で解決していくようにする。・ 係りの必要性を自覚し、教師に支えられながら、自分たちで係り活動を組織し、進んで実践できるようにする。・ 自分たちの創意で集会の計画をたて、全員が参加し運営できるようにする。	
内容活動	活動の目やす	指導上の留意点
	<ul style="list-style-type: none">・ 問題を選び議題として考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・ 問題を集める場合、小集団による話し合い、個人からの両面をとる。

内容活動	活動の目やす	指導上の留意点
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 小集団で計画委員会をつくり、教師の指導により議題の選定、実施計画をたてる。 計画委員会は、決定した議題を学級全体に知らせるために、前もって掲示したり、資料なども使用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画委員会は、代表委員、議長団問題提出者とし、交代を考える。 提案のためにいろいろな種類の資料を用意させて、提案理由がはっきりわかるようにするとよい。
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 司会の役目を理解し、順序を考えて話し合いを進めたり、まとめたりして会を進めることができる。 発言者の意見を要約したり、わからない発言は聞きなおして伝えたり賛成、反対の意見を求めたりすることができる。 きまったこと、おもな意見も加えて順序よく記録できる。 決定事項を報告することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの順序を考え、それに従って司会することになれさせる。 発言を要約したり、わからない発言をもう一度いのように指示する。 会をすすめる目やすになるような記録ができ、決まったことを区別してはっきりわかるようにさせる。
話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめて話したり、他人の意見をまとめながら聞きとることができる。 自分の思ったことは他人の意見にとらわれずに発言することができる。 議題にそくして話すことができ、小集団の代表としての発言もできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容をとらえながら、自分の考えと比べながら、うなづく、拍手などをしてわからない点は質問できるようにする。 議題にそくした内容の発言をさせる。
実践	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことは、グループで助け合って実践する。 実践の点検をし、守れない理由を考えてもう一度話し合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲を高めるため、表彰、実践表などを用意する。 個人、集団の点検も考えさせる。

2. 実施計画作成の手順

(1) 議題の選定

- ① 議題箱から
- ② 朝の相談・かえりの反省から
- ③ 日直日記，グループ日記，清掃当番活動日記，給食当番日記，係り日記
- ④ 教師や代表委員会から

(2) 計画委員会

児童4名による議長団（議長，副議長，黒板書記，ノート書記）が構成されている。この他に教師と提案者とを加えて実施計画を作成する。

3. 実施計画の作成（案）

第 2 2 回

4年3組

学級会活動実施計画

1 1 月 1 日（火曜）	第 3 校 時
出されたいろいろな議題	整 理 の し か た
<ol style="list-style-type: none"> 1. みんなあいさつしよう。 2. 学年図書のかりかたをくふうしよう。 3. 校庭での遊びかたを考えよう。 4. べんり箱をつくろう 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝の相談で話し合おう。 2. 図書係でくふうしてみる。 3. 朝の相談でもう一度話し合おう。 4. 学級会の議題となる。
議 題	べんり箱をつくろう
提 案 者	荒 井 啓 輔
提案理由	えんぴつ・消ゴム・じょうぎなどのおとしものを整美係があずかっていますが、あまりに多いので一つの箱ではたりなくなってきました。このまま箱にしまっておいてもしかたがないので、ぶんぼうぐをわすれて勉強ができなくてこまる時などは、みんなで利用したいとおもう。
話し合い	ぶんぼうぐをわすれた時，おとしものをつかえるようにする。おとしもの

のめあて	を保かんしておく箱を「べんり箱」とすることをきめる。	
話し合い たいこと がらと、 順 序	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案者が議題をだしたわけについて説明する。 ・ ぶんぼうぐをわすれて勉強する時にこまった経験を発表する。 ・ いまあるおとしもの数を発表する。 ・ べんり箱のつくり方を話し合う。 	
	おもな質問や意見	きまったこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・ いままで、わすれものをして勉強する時にこまった人はどのくらいいるのか。 ・ べんり箱をつくるのなら、しなものによって箱を別にしておいたほうがよい。 ・ いえにあるかねの箱でいらぬものを寄そうしてもらったほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ べんり箱をつくる ・ 箱はかねの箱 ・ いえにあるつかっていないものを寄そうしてもらおう。 ・ 種類別の箱にする。 ○ いまつかわなくて、あまっているぶんぼうぐをみんなで寄ぶする。
先生のお話	<ul style="list-style-type: none"> ○ たくさんの方が発言し、おしまいまで熱心に話し合いができました。ただひとことも発言しない人がいましたが、これからは進んで発言するようにしてください。 ○ べんり箱ができたからといって、ぶんぼうぐをわすれていいというわけではありません。なるべくわすれものをしないように心がけてください。 	
反省	<ul style="list-style-type: none"> ○ きようはみんなが一牛けんめいにやってくれたとおもう。 ○ 学級会のおきにまわりの人とおしゃべりをしている人がいたが、これからはやめてもらいたい。 	

4. 学級会活動指導案

11月 1日 第3校時

指導者 石川和男

4年3組 (在籍 男17名 女19名)

(1) 議 題 べんり箱をつくろう

(2) 議題選定までの経過

学級内でのおとしものを保管している整美係から、おとしもの入れの箱が小さくなって

きてしまったから、なんとか考えてほしい、できたら学級会の議題として取り上げて話し合ってもらいたいということが帰りの反省でだされた。そのほかにも、「みんなあいさつしよう」「学年図書のかりかたをくふうしよう」(図書係)、「校庭での遊びかたを考えよう」(議題箱)等がだされた。計画委員会で、おとしものをなんとか活用していくことが大切であることを助言してやった。荒井啓輔から「わすれものをしてたら、それをみんなでつかえるようにしたらどうだろう」という発言があって学級会の議題としてとりあげられることになった。

(3) 実施計画の大要 — 略 —

(4) 指導のねらい

- ・ 自主的な実践力をのばす。係り活動からの提案はすくないので、積極的な実践活動をのばすようにする。

(5) 指導上の留意点

- ・ あまり経費のかかる計画にならないようにする。そうかといって、なんでも家庭からもってこさせるのではなく、つかっていないものを活用させるのだということを徹底したい。
- ・ 発言が一部の児童にかたよらないようにしたい。
- ・ やたらに多数決制をとらないで、少数意見をも尊重させるようにしたい。

(6) 評価の観点

- ・ 教師の助言が権威で説得するようなく、適切におこなわれたか。
- ・ 友だちの意見をよく聞いて、自分の考えをまとめてから発言できたか。
- ・ べんり箱の必要さがじゅうぶん納得されたか。

5. 実践指導例

議長 これから、第22回学級会をはじめます。きよりの議題は「べんり箱をつくろう」ということです。これは整美からだされた問題です。提案者の荒井くん議題をだしたわけについて説明してください。

児童 えんぴつとか消しゴムなどのおとしものを整美係であずかっていますが、このごろはおとしものをしてもとりにくる人がいないので、たまるいっぽうです。このおとしものをすてるわけにもいかないので、わすれものをした時につかわしてもらおうような方法を考えたいとおもいます。そのためには、種類別におとしもの箱に入れておくような便利箱をつくりたいとおもって提案しました。みなさんよく話し合ってください。

— 略 —

議長　べんり箱をつくることには、みんな賛成ですね。では、どんなべんり箱にしたらよいかを話し合ってください。

児童　大きな箱をつかって、箱の中をいくつかに区切っておいておとしもの種類別に箱に入れるようにした方がよいです。

児童　箱をつくるのは大変ですし、お金もかかるでしょう。だから、みんなの家にある箱でいらぬ箱を学校にもってきて、その箱におとしものをいれてあるなまえをかいておけばわかるので、石けんがはいっていた箱とか、おせんべいやのりの箱がいいとおもいます。

— 略 —

教師　おとしものだけでは、べんり箱のなかみがたりないとおもうので、家にある学用品でいまつかっていないものを、みんなでさがして寄ふしてもらえるとよいとおもいます。

— 以下略 —

6. 指導後の反省

- 興味のある問題でもあるので活発であったが、個人中心の発言が多く見られた。
- 問題が具体的であるためかなり積極的な発言があったが、わすれものをしなくふうなどの発言もとびだしてきたり攻撃的な傾向もあった。
- 議長が一部の児童の発言にひきずられ勝ちになったり、まとめるのに苦労していた。

(北・王子第一 石川和男)

話し合い活動(五年)

1. 指導計画(抜粋)

第5学年の話し合い活動の指導のねらい

- ◎ 学級生活をよりよくするために主体的に活動し計画的な集団生活を営むことができるようにする。さらに学校全体の問題にも関心をもって活動ができるようにする。
- 学級の問題を自分たちで発見し、自分たちの力で解決しようとする意欲や能力をのぼし、話し合いで決まったことは積極的に実践できるようにする。

活 動 の め あ て	指 導 上 の 留 意 点
<p>◎ 議題の提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで問題を発見し、提出することができる。 ・ 計画委員会で、議題の重要性、緊急性、実行可能性を考えて議案を決め、実施計画が立てられる。 ・ 提案理由をわかりやすく発表できる ・ 議題にとり上げられなかった問題の処理を教師と共にくふうする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題発見がしやすいように手だてをしておく。 ○ 計画委員会では、話し合いのめあて、手順、準備、時間等、教師の助言が十分加えられるようにする。特に、実行が可能であるかをよく考えさせ実践できるようにさせる。 ○ 議案は、できるだけ早く提示する。 ○ 提案理由は資料の活用も効果的である
<p>◎ 司会・記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで、会の手順や方法を考えて司会ができる。 ・ できるだけ多くの人に意見を発表させみんなの納得の上で会をすすめる。 ・ 要点をはやくまとめて記録することができる。 ・ 決定事項を要領よく報告することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 司会や記録は、月交代ぐらいにして、多くの児童に経験させたい。 ○ 発言の不備はいいなおす。長い発言はまとめるなどで進める。 ○ 発言がかたよる場合は挙手をしない人にも指名することがある。 ○ 黒板やノートに要点を要領よく書くように指導する。 ○ 記録の役割を常におさえる指導をする
<p>◎ 話し合い・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで発表し、事実や論拠をはっきりさせて発言する。 ・ 人の発言をしっかり聞きとる。 △ 何のために話しているか、自分の意見と比べながら ・ 司会に協力し、話のすじにそった発言をする。 ・ 実践できるかどうかを考えて採決に応ずる。 ・ 決定事項は積極的に実践し点検も考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発言がゆきずまったときは、小グループの話し合いをさせる。 ○ 質問のし方、賛成意見、反対意見、修正意見の出し方をおさえる。 ○ 同意見のときは賛成の声か拍手を送るようにさせる。 ○ 採決のし方は拍手、挙手、起立などのやり方を知らせる。 ○ 意欲を高めるため表彰、実践表などを考えるとよい。

2. 実施計画作成の手順

- 計画委員会で実施計画を作成する。構成員は、議長、副議長、書記、各班長、各係り長の計12名である。毎週金曜日の放課後に開くことを原則として決めてある。
- 問題集めをする。(問題の発見がしやすいように手だてを効じる)
 - ・ 班日誌 ・ 学級ポスト ・ 係り日誌 ・ 個人日記 ・ 学級日誌等
- 問題の整理をする。(みんなに共通の問題であるか、重要性、緊急性、実行可能か)
 - ・ 学級会の議題にする ・ 終わりの会でする ・ 班会議でする等
- 話し合いのめあてや話し合いの順序などを決める(教師の指導助言が特に大切である)
- 実施計画を印刷して配布する。(学級会実施の前日に予告するという事で配る)

◎ 実践例

1. 問題集めをしたら次のようなことがあった。

- ・ 班日誌 ……そうじ当番の時、男子と女子の協力がうまくいかないで困る。
- ・ 学級ポスト……学級園に球根を植えるようにしたいと思う。
- ・ 係り日誌 ……ろしろの黒板をもっときれいに使いたい。
- ・ 個人日記 ……休日に友だちだけで遠出をして遊んだこと。(教師より提出)

2. 問題の整理をする

議長から提案された4つのことから、現在、学級のみんなが共通の問題として、話し合う必要があるのは、係り日誌に書かれている提案だということに決定した。

3. 指導助言をする

実施計画をいつまでに配布するか。話し合いのめあてや、順序をどうきめるか。議長の問いかけに対して、ずれた発言があった場合には、計画委員がもとに戻すような発言をして能率的に話し合いが進められるようにする。問題が決定されるときに、実践できるかどうか考えて、不安が残る場合には、話し合いをなお深めるように進行するなど。

以上のような経過をたどり次のような実施計画が作成された。

3. 実施計画の作成

5年1組 学級会活動実施計画		11月1日(火)		第4校時
出されたいろいろな議題				
<ul style="list-style-type: none"> ○ そろじ当番の時, 男子と女子の協力がうまくいかないで困る ○ 学級園に球根を植えることについて ○ 休日に友だちだけで遠出をすることについて 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 終わりの会 ○ 栽培係に連絡する ○ 終わりの会 	
議 題	ろしろの黒板の使い方をくふうしよう。			
提案者	掲 示 係			
提 案 理 由	最近, ろしろの黒板がいままでに比べて, うまく使われていない。こんど新しい係りも決まったことだから, 楽しく使えることができるように, みんなでくふうしたい。			
話合 めあて	ろしろの黒板が, もっと楽しく使えるように, みんなで意見を出し合い利用できる方法を考える。			
議 長		副議長		書 記
準備するもの な し				
話し合いの順序			決まったことを記録する	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 提案の説明, 質問 ○ いままでの黒板の使い方について ○ これからの黒板の使い方について ○ 楽しい黒板にするには, どんなものを書いたらよいか。 ○ 黒板の割り付けについて 			○まとめ	
反省したこと, 気づいたこと				

4. 学級会活動指導案

1. 議 題 うしろの黒板の使い方をくふうしよう。

2. 議題選定までの経過

係り日誌に「うしろの黒板の使い方がうまくないので、もっと楽しく使えるようにくふうしたらどうだろう。」という提案が書かれてあったので、計画委員会で議題となった。

現在、新しい係りが決まったばかりなので、いままでに比べて、うまく使われていないので、みんなの問題なので、議題としてとりあげようということになり、提案者の話しをよく聞いて、終わりの会で全員に発表し決定した。

3. 本時の活動 「実施計画」参照

4. 本時の指導上の留意点

- 発言をするときには、始めに「〇〇さんの意見に賛成です」「〇〇君の意見に反対です」と意思表示をしてから、その理由を述べるようにさせる。
- 人の発言と同じことをくり返さないように、よく人の意見を聞いて自分の考えで、賛成、反対、修正意見が述べられるようにさせる。
- 自分が実践できるかどうか、よく考えてから採決に応じる態度をつける。

5. 備 考

- 女子の発言が、いつも少ないので、できるだけ女子の発言を引き出すように進行させる。

5. 備 考

議 長 はじめのことば

提案理由の説明 係りの児童から

助 言 提案された内容を補足したり、指導のねらいをはっきりさせる。

議 長 質問を聞く。「いままで、どんなことに使われていたか」

A 男児 ほとんど連絡のことや、係り、代表委員会のお知らせが多かった。

議 長 これからは、どのような方法で使ったらよいか。

B 男児 自分たちの黒板だから、もっと楽しく使いたい。

C 男児 B君の意見はおかしい。使い方の方をいってもらいたい。

D 女児 B君の意見に反対。楽しく使うといっても面積が決まっているからうまくない。

(連絡事項だけにする。楽しい黒板にする。という2つの意見に分かれた)

- 助言 議題のめあてを明確にして、黒板の使い方をくふうするという点を考えさせた。
- 議長 楽しい黒板にするには、どういものを書いたらよいか。
- 男女児 行事の計画。学級ニュース。係りのおねがい。らくがきコーナー（続きまんが等）詩。作文。（いろいろと希望意見が出る）
- 書記 いままでの意見をまとめます。（といて板書したことがらを発表する）
- 議長 採決をする。
- 男児 議長、そんなに書けるのですか。（議長は、係りに割り付けの原案をたのんだところでベルが鳴る）
- 議長 では、あすの終わりの会で残りは話し合います。終わりのことば。歌の合唱。

6. 指導後の反省

1. 在籍41人中、発言者は16名、うち女子は5名であった。しかし、発言をしなかった児童も、だいたい話し合いの仲間にはいっていたと思う。（人の話しを聞いている態度や賛成、反対の意思表示などから考えられる）
2. 助言をあまりしなかったが、話し合いが積み上がっていたようである。
3. 女子のなかには、話し合いについていかれず、人の意見をいろいろと聞いているうちに途中で思考が混乱して自分の意見に自信がもてなくなったものがある。
4. 問題を決定する前に、もう少し話し合いを深めさせるような助言をすればよかった。
5. 各児童の反省記録を読むと、自分の言おうとしていることを、他の人に先に言われてしまうので、何も言えなかった。人の意見を聞いているうちに、どの意見も良いように思われてしまう。などという反省が書かれていた。

（葛飾・梅田 篠原正享）

係り活動（五年）

1. 指導のめやす

1) どんな係りを、どのようにして設けるか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級の必要性や、部活動との関連を考え、係りを組織する。 ○ 仕事にあったリーダーを選ぶ。
2) 係りとしてどんな活動を	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級全体のことを考えて活動計画をたてる。

どのように展開するか	○ 係りに適した計画を考える。
3) 仕事に対する積極性や、持続性を生かし、係りの交代をどうするか	○ 学級全体のことを考えて仕事をしていく。 ○ 活動計画に即して、継続的に実践していく。
4) 仕事に対する技術や能力を、どうおさえ生かすか	○ 係りの仕事に、自分の個性や特技を生かす。 ○ 自主的な計画・実践が多くなる。
5) 集団意識の把握に立って児童の活動をどう組織していくか	○ 学級全体のためを考えて働らく。 ○ 他学級との関連も考える。

※ 世田谷区として区の特活研究部で指導計画の試案を作っているが、本校としてもそれにならない上記のように作成している。係りの活動を育て指導していく上で、めやす=ねらいが必要なことは云うまでもない。ここに5年生のものを抜粋した。

2. 指導計画（係りの活動）

(1) 指導のねらい

- ア、係の内容と活動を理解し、見通しをたてて組織や計画ができるようにする。
- イ、反省を生かしながら、積極的にくふうしたり考えたりして活動を進める。
- ウ、記録が綿密にとれ、運営の資料にすることができるようにさせる。
- エ、学級全体のことを考えて、運営できるようにする。

(2) 児童の活動

ア、組織

- 係りの仕事の内容を明確にし、運営に必要な人数をきめる。
- リーダーの配置や、個人の能力なども考慮して、係りを選ぶ。
- 係り、グループごとの話し合いをもって、仕事の分担をきめる。
- スケジュールの立案は、学期ぐらいの見通しをたてて行う。

イ、運営

- 係り内の組織は、運営に便利なように活動しながら、自分たちで改善していく。
- ○ 活動の時間をくふうしてもつ。

- 記録は交代でつけ、できるだけ綿密に書いて反省の資料とする。
- 交代時には、活動の成果を発表し、反省し合う。

(3) 指導上の留意点

ア、組織

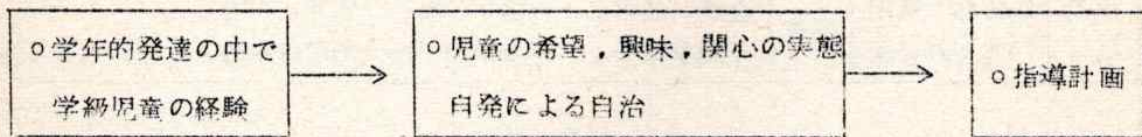
- 活動内容や方法を前学年より発展するように努め、人数の適正も考えさせる。
- 係りの好き嫌いに男女差が目立ってくるが、特に男女数にこだわらない。
- リーダーの選出では、学力中心の考え方をとらないようにする。
- スケジュールは、週程度のものから、次第に日案的なものへと書けるようにする。

イ、運営

- リーダーにひきずられず、話し合いの上、みんなが納得のいく運営をする。
- 実質的な活動に重点をおき、話し合いに時間をとりすぎないよう配慮する。
- 記録形式はなるべく統一せず、児童のつけ易い方法を、児童自身に考えさせる。
- 係り交代は学期制とするが、全面交代をせず、1～2名が残るようにして、次期の活動の内滑化をはかりたい。

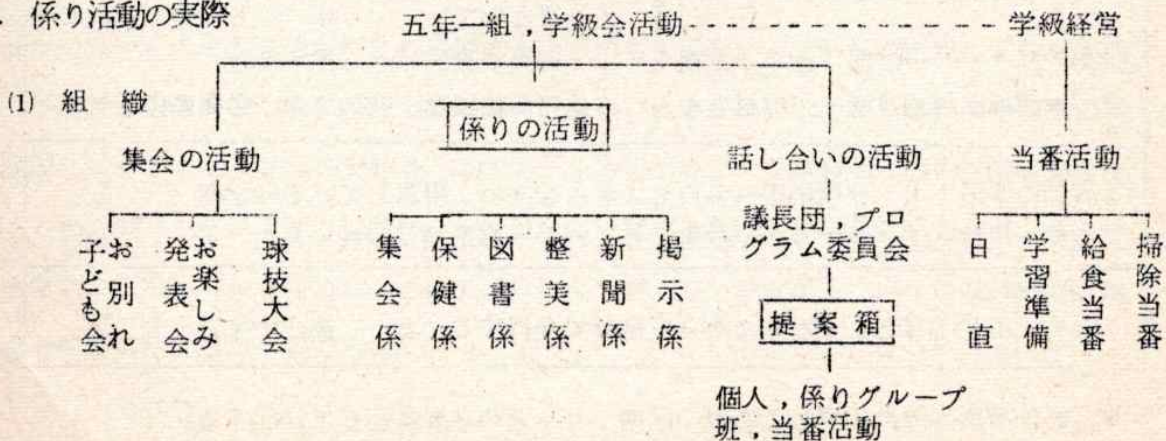
※ 指導計画は本来、指導していく手がかりとして教師がたてるものである。一つ一つの具体性については、実施計画の中で、所見として、或は計画の段階でふれていく。

3. 指導計画作成の手順



※ 児童の自発的、自治活動を、どのように大きくとりあげるかが大切かと思う。

4. 係り活動の実際



(2) 活動内容

○ 掲示係	○ 学習作品・自由研究作品等の掲示，展示をくふうする。 ○ 側面，背面児童黒板・掲示板の活用を考える。
○ 新聞係	○ 学級新聞<現在名前を募集中>の発行 1学期～13号 ○ 印刷新聞<1月現在，29回の発行をした> 2"～15号
○ 整美係	○ 教室内の整理整頓，美化のくふうをする ○ 花の飾りつけ ○ 学習用具，備品，用紙，戸棚などの管理
○ 図書係	○ 学級文庫の貸し出し ○ 本の修理 ○ 学級員の希望調査 ○ 新着本の紹介 ○ ファイル等の整理
○ 保健係	○ 保健行事のお知らせ(月，週) ○ けが人や体の具合の悪い人のせわ ○ 学級に備えつけの救急箱の管理 ○ 健康標語のくふう
○ 集会係	○ 学級集会の計画(年3回) ○ 推 進

5. 実施計画の作成 (新聞係の一例)

係長	◎渡部 悟朗	係員	金巻 龍平， 古橋 漸 新井 恵介
副	○渡辺れい子		千野多恵子 川勾登志子 岡田はるみ
○ 仕事の分担		○ 活動の計画	
① 記事集め…渡辺，千野，岡田 * ニュース…川勾，新井 そのほかおもしろい記事		月 月 記事集め ガリパンをきる ? ? * 毎日ひまをみて少 土○まとめて 水 しずつ，交代して 編集する 木=発行 * 係内の相談は，月のほか，必要に応じて	
② ガリパン…渡部，金巻，古橋 * 印刷は用務員室……中村さん			
○ 活動の準備 道具・用具	① 原稿用紙～各自で大きさをきめ，用意している～学級 ② やすり板，鉄筆，じようぎ，修正液，原紙～先生		
○ 所見	1号1号とよくなりながら，続けて発行すること - 感心です。 岩 下		

* わら半紙半分に印刷してあり，学期，月，週の必要に応じて作成する。

6. 実践指導と考察(反省)

- この期の児童は、4年から5年に進級するとき、学級編成がえをしたので、前学年での経験が、いろいろあり、なかには、係り活動として望ましくないものもあったが、2学期以降、前の頁のように整理された。
- 実施計画作成に当っては、係長を中心に、月曜日の6校時を話し合いに当てているが、児童自身の活動をより具体的に容易にするため、指導助言を加えている。
- 学期の終わりに、「学級会活動の反省をしよう」という議題で、係り活動の反省も行われるが、①何をしたか ②どんな苦勞やよろこびがあったか ③次の学期にはどうしたらよいかなど、実践—経験—向上と、その歩みは進んでいる。
- より高学年らしい係りの活動をおし進めるには、児童の意見や考えを十分引き出し、より自治的な方向へ導いていくことである。
- 係り活動の総ては、学級全体の中での活動であることを、よく理解させる必要がある。

(世田谷・弦巻 岩 下 紀 夫)

集会活動(五年)

1. はじめに

テーマに対し、5年生の集会活動“ポートボール大会を開こう”の実践を紹介し、御指導をいただきたいと思う。

2. 指導計画について

指導計画は各区または学校で作成されているが、その大部分は、特活の特色である自発性自主性の育成を考えた弾力性にとむ概説的な内容のものが多い。これらの計画は、指導計画というより、指導計画作成のための参考資料と考えたほうがよい。これらの計画を現場の集会活動に生かすには、学級の実態や、児童の要求等を加味した、学級集会活動指導計画を作ることが必要となる。下記の計画は、年度始めに、児童と教師との話し合いをもち、どんな集會をいつごろもつかを検討し、学校や区の行事を考え合わせながら、区、学校の指導計画を参考にして作成したものである。

目標	楽しくてためになる，多彩な学級集会を，自分たちの力で計画し，運営しながら，学級内友人間の親和や学級生活の向上をはかる。		
月	集 会 名	ね ら い	指導方針および留意点
4	進級お祝い 会	・進級をみんなで喜びあ ろ ・進級の抱負を出し合	・進級の喜びと共に，高学年としての自 覚の高まりや，級友間の親睦をより高 められるような会にさせたい
11	学級ポートボ ール大会	・ルールを守り楽しく行 なって学級の和をはか る	・区内対抗競技に選手として出られなか った児童たちを大いに活躍させたい ・選手だった児童はみんなに作戦や技術 をよく教えてやる

この指導計画を作成するに当り留意したことは，①集会の種類は児童の要求や必要感を第一義とし，②同一傾向の集会にならぬよう種類の多様化をはかり，③集会一つ一つの特徴を生かした指導方針の立案に努力した。回数は高学年の故，学期1～2回ぐらいとした。

3. 実践計画作成の手順

上記の指導計画をどのように実施計画に移したか，実践の記録にしたがって，その手順を記してみる。

(1) 議題案の提出

- (イ) 予定の時期に近づいてから集会係が運営委員会に，学級ポートボール大会の開催を議題としてもらいたいと申し出た。
- (ロ) 運営委員は集会係長を交えた話し合いをもち，これを学級会の議題としてよいかどうか，全員にはかるための準備を行なった。（いつ，誰が，どのように提出するか）

(2) 議題と決定する

翌日の朝の会に，集会係長から前記の議題案がみんなに出され，全員一致で議題にすると決定，同時に，集会案を集会係が作り，運営委員会ではかったのち，学級会に提出することもきめた。決定したあとで教師からのお願いとして，指導計画にもった指導方針のべ，ころいう心や実践態度をもって，よりよい集会をつくることを希望すると伝えた。

(3) 原案作成

その日の放課後，集会係が原案作成のための話し合いをもち，原案をたてた。

(4) 運営委員会で原案の事前検討と実施計画の作成

翌日放課後，集会係長および教師をまじえ運営委員会を開き，集会原案を検討したのちに実施計画を作成した。

4. 実施計画作成に至る手順の中で指導および留意したこと

- (1) 年間計画にもられているから，その時期が近づいたなら，そのまま議題として出してもよいが，集会をもとめとする気持ちがみんなの心にむりなく再燃するようにはかることが大切である。係から委員会へといろいろの所へ話を通し広げたり，議題案として提出して児童全員の動きや考えをよく確かめてから決定する等の配慮，指導を行なった。
- (2) 指導方針や留意点については，手順の中でのべたように，指導過じようにならぬ範囲で先生からの希望として，適時，適ぎにおりこんで行った。
- (3) 原案の作成や実施計画の作成が放課後の活動となるため，帰りの反省や清掃時間の短縮を配慮した。
- (4) 原案の作成や実施計画の作成については，話し合いに必ず出席するようにし，児童が困難を感ずる所などについて相談にのってやった。

5. 実施計画の作成

学級会の行なわれる前々日の放課後，運営委員会を開いて作成した実施計画を記してみる。

尚，運営委員会の構成は，学級委員4名，生活グループ班長5名，議題提出者，および教師である。

実施計画の概要

議 題	学級ポートボール大会を開こう	議長	大友 勝典 永倉多佳子	書記	山本 仁子 橋本こずえ
提 案 者 と 提案理由	区のポートボール大会も終わったので，ここで学級のポートボール大会を開き今まで練習に参加しなかった選手以外の人たちにも，ポートボールの面白さ，楽しさを伝え，みんなで仲よく楽しくやりたい（提案者 山崎健市）				
話し合い のめあて	・みんなで意見を出し合って，仲よく楽しくやれるポートボール大会の計画をたてる。				

話し合い の 順 序	①開会 ②議題の発表 ③提案説明（議題についての提案理由説明は議題決定の所ですませたので、集会原案の説明を行なう） ④提案に対する質問 ⑤原案について話し合う ⑥決定 ⑦まとめ（決定事項の確認と簡単な反省）
準備する 資 料 と 仕 ごと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原案をもぞろ紙に書いておく……集会係が行なう ・ それを学級会の前日教室に掲示して、みんなの意見を前もってまとめておいてもらう ・ 実施案を前日に発表する……運営委員 ・ 議題カードや進行カードを作る……書記

6. 学級会指導演

児童の作成した実施案をもとに、自分の指導計画や、前回の話し合い活動、集会活動等の反省を考えて、日の学級会指導演を次のように作成した。

日 時	11月12日 4校時
指導の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごく限られた児童ばかりでなく、多数の児童が発言できるように考えたい ・ 自分たちの力で集会の計画がたてられるという自信を、前回より高めたい
指導上 の留意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に発言準備をしておくように、適時指導する ・ 日時は、学校行事等を考えて教師案として出し決めたい ・ 当日のプログラムについては原案にとらわれず、斬新なアイデアが広く出るように助言したい

上記の計画は、学級会ごとの時間にたてるものであるが、できるだけ簡単に、そして毎時のつみあげがよくわかるように記録したい。

7. 実 践

実施計画にしたがって熱心に話し合われ、次のように決定した。

- ・ いつやるか 11月18日と19日の放課後（2日間）
- ・ どのようにやるか
 - ① 組合わせ 生活グループごとのリーグ戦（チーム数5）
 - ② 試合時間 1試合，7分間

③ ルールは区の大会の時のルールで行なう

④ 係（準備，時計，審判，記録採点）とその人数

⑤ 当日のプログラム

○入場 ○開会のことば ○宣誓 ○競技 ○結果の発表 ○おわりのことば

こんどの集会で守ること

① 練習のときや試合のとき，選手だった人は，ルールや技術をみんなによく教えてあげる。

② みんなで力を合わせ仲よくやる。

以上のように決ったが，その間に行った助言回数は5回である。（進行について2回，意見がさくそうしたのをまとめ，問題をわかりやすくした，3回）

9. 指導後の反省

(1) 会の進行がスムーズで，活発に話し合えたことは，児童の好きな集会の計画活動だったからとも考えられるが，次の諸点もその理由にあげられよう。

- ・ 指導計画から実施計画作成に至る手順の中で，児童の要求や考えを重視し，くみ入れていったこと。
- ・ 計画にあるから集会を行なうという出し方でなく，計画にもあるが，みんなの集会对する考えはどうかと出していったこと。
- ・ 集会係が自分たちの仕事に対する熱心さをもっていたこと。
- ・ 事前に原案が示され，児童各自が，原案の一つ一つに自分の考えをもって話し合いに参加したこと。

(2) 今後の問題として感じたことは

- ・ 話し合いの内容が多く，時間に不足を感じたこと。そのため，議長が進行を急ぎ，混乱をまねいたり，わからないままに進む所があり，進行について2回助言を行なった。
- ・ 原案がやや細かかったため，どのようにやるかはよく理解されたが，話し合いの深まりが少なく，平板に流れる点が気になった。

これらについては，原因方法等を考え，今後の指導で是正向上をはかって行こうと思っている。

（大田・大森第六 柴山 義市）

学級会部会

部長	港・桜小	渋谷	昇
副部長	世田谷・弦巻小	岩下	紀夫
副部長	豊島・豊成小	内山	寿一

Ⅱ 児童会活動の指導計画と実施計画のありかた

児童会活動
研究グループ

1. 児童会活動の指導のねらい

- (1) 児童が自発的・自治的に学校生活に関する諸問題を取り上げ、自主的に話し合って、解決できるようにする。
- (2) 学校の仕事を自分たちで、分担処理していく意識をもたせ、楽しい充実した学校生活ができるようにする。
- (3) 児童の話し合いの結果、必要に応じて種々の集会を有機的・計画的にもつようにして、楽しい豊かな集会にすることができるようにする。

2. 児童会活動の内容

- (1) 話し合いの活動……学校生活に関する諸問題を話し合い、解決する活動で、主として、代表委員会の活動がある。
- (2) 部の活動……学校内の仕事を分担処理するための活動である。主として、新聞・放送・図書・保健などに関する活動が考えられる。
- (3) 集会の活動……楽しい豊かな集会にするための活動である。主として、代表委員会・部の活動などの伝達や報告、レクリエーションなどが行なわれる。

註<港区S校の例>

- (1) 代表委員会……学校の諸問題を持ちより、話し合い解決していく。
- (2) 部の活動……学校の仕事を分担処理する。
- (3) 集会の活動……全校児童が集まり、楽しい豊かな学校の集いをする。

以上の3つの活動が主になるが、3つの活動にはまた、それぞれ違った活動が行なわれている。主な例をあげると、つぎの通りである。

ア、代表委員会について

○ プログラム委員会

毎月第1水曜日の第5校時に、議題の選定や集会活動の計画など、児童会活

動全般に関する諸問題の計画・立案などを行なう。

イ、学年内連絡会

各クラスの代表が集まり、遠足のバスの乗り方やボール大会などを決めたりする活動である。

ウ、各活動の連絡会

クラブの発表会の運営を、児童会で担当するので、各クラブの実情について話し合い、必要事項を決めるなど、クラブ活動や部の活動などで必要に応じて順次に会を開き、話し合う。

エ、児童集会（水曜の朝）

1年から、6年の全児童が集まり、議長団の司会・進行で、朝の歌や遊戯、代表委員会の決議事項の伝達、各部の報告、クラブ活動の研究成果の発表、全員で協議することなどである。

オ、年間計画による集会

選挙集会（2回）、議長団選出の投票（2回）、卒業生を送る会、クラブ活動研究発表大会などがある。

3. 組織と児童参加

(1) 代表委員会

代表委員会の組織には次のような特性が考えられる。

- 活動しやすく、全校児童の意志の反映できる組織が必要である。
- 発達段階を異にする代表によって構成される。
- 代表委員は所属集団から選出されるが同時に全校の代表である。

このような特性をふまえて組織を考えなければならない。

構成は学校規模によっても異なるが、代表委員は児童の集団討議の可能性から見て最大限40名内外に押えることが望ましい。4年以上の各学級、各部の代表が選出されるが中小規模校では3年からも選出しているところがある。選出については学級委員や部長がそのままスライドする学校もあるが、話し合いによっては他の代表を送ってもよい。議長団は代表委員の互選、上学年を主とした選挙（小規模校の場合）等があるが、全校児童の納得のいく形で選出されなければならない。その他、議題によってはクラブ代表を加えることもある。交替は学期別または2期制が多い。

運営委員会は議長を中心に、各学級・各部の代表が適時交替して行ないできるだけ多くの者に経験させるとよい。

(2) 部の活動

5、6年の全児童が参加して活動をする。4年を参加させているところもあるが、余りうまくいっていない。交替は通年制、2期制が多い。頻度数の高い部には、図書・保健・放送・飼育・整備(美)・新聞等がある。学校管理上の補助的な活動をする部はさけ児童の創意を生かし児童の能力で処理できる部を設置する。また、大規模校で児童の人数を消化するため、やたらに多くの部を設置しているが、危険である。(運営面で工夫すること)

(3) 集会の活動

児童の手による集会活動を実施している学校が少ない(学校行事とは本質的に異なるものである) 毎週、朝会時を利用して児童集会の時間をもち、代表委員会が企画充実しその運営に当る、集会部を設けているところもある。その他年間の行事計画を立て代表委員会を経て、レクリエーション・スポーツ大会等を全校または学年別に実施している。

4. 時間のとり方

(1) 代表委員会

ア、定例委員会は毎月1～2回、1時限ていど開く。(1回にあてる時間は1時限ていどとする。曜日は各学級の実情に応じて決定する。)

＜墨田区S校の例＞

- 原則として、毎月第2火曜日の6校時終了後、1時限をあてる。ただし、当日は特別時程(休み時間を5分間に短縮)とし、開会時刻を早める。
- 各学期初めの最初の火曜日・6校時終了後・組織作りのための委員会を1時限もつこと。

イ、年間配当時間数は、合計14時間ぐらいとする。(4、9、1月は2回、他の月は1回とする。)

ウ、臨時委員会は、必要に応じてもつ。ただし他の教育活動に支障のない日に行なうこと。

＜註＞

- 議題が処理できないで継続審議になり、1日も早く解決を要するとき。

- 緊急に処理しなければならない議題がとりあげられたとき。 など

エ、運営委員会は定例委員会に先だって開く。(1～2週間前に開くようにする。)

<墨田区S校の例>

- 原則として、毎月第4火曜日、6校時終了後、1時限をこれにあてる。さらに必要な場合は、他の日の校時外に随時とること。

(2) 部の活動

ア、固定時間は月1～2回、各部一斉にとるようにする。(1回にあてる時間は1時限でいどとする。曜日は各学校の実情に応じて決定する。)

<墨田区S校の例>

- 毎月の第2、4水曜日の6校時をあてる。

イ、年間配当時間数は、合計11～22時間とする。(毎月1～2時限、11か月)

ウ、随時活動の時間は、各部の必要に応じ他の教育活動に支障のない日の休み時間や校時外にとる。

エ、各部の連絡の時間は、必要に応じてとる。

<註>

- 代表委員会でとりあげた議題から連絡が必要になった場合。
- 部長会を開催する場合。

(3) 児童会の集会

ア、定例集会は、毎週1回ていど行なう。(1回にあてる時間は10分～20分ていどとする。)

<墨田区S校の例>

- 毎週木曜日の1校時開始前の10分間をあてる。

イ、年間配当時間数は、およそ合計6～13時間とする。(4.7.12.3月は3回、他の月は4回とする。

ウ、年間計画としておさえられている 長時間の集会活動は、原則として1校時(45分)とする。

エ、臨時集会は、必要に応じて昼休みに行なうことができるが、他の時間にくいこむときは、学校が許容した範囲で行なわせる。

5. 児童会活動の指導上の留意事項

(1) 代表委員会

ア、月に1～2回あるので、計画を綿密にたて、定例日の線をくずさない。

イ、議題は、最低1週間位前に決めて、みんなに発表して、代表委員にしらせ、前もって考えさせておく。

ウ、生活規制的議題や各部、各学級の問題は参考例として提出しても、中心議題としてはなるべく避ける。

エ、会合の時間は、1回につき、1時間以上の時間をかけない。

オ、決まったことは、新聞・放送・学級委員・代表委員などを通して、すみやかに、全校児童や教師にくまなく伝わるように方法をくふうして、実践する。

(2) 部の活動

ア、自治的・協力的考え方や態度に留意して指導にあたる。

イ、部の活動に喜びを味うように、活動の内容や方法等の指導・助言をする。

ウ、長期の計画を詳細にたて、思いつきの活動にならないようにする。

エ、連絡・調整をよくする。

オ、記録をよくとり、反省や来年の資料にできるようにする。

(3) 集会の活動

ア、計画がマンネリ化しないで、たえず新鮮さをもつようにする。

イ、形式にとらわれないで、長いめで、育てていく。

ウ、時間内で、しかも余裕のある会にしたい。

エ、司会・進行と発表者や演技等のリーダーになる者との事前の打ち合わせをよくしておく。

6. 児童会活動の年間指導計画と実施計画

(1) 代表委員会

ア、内 容

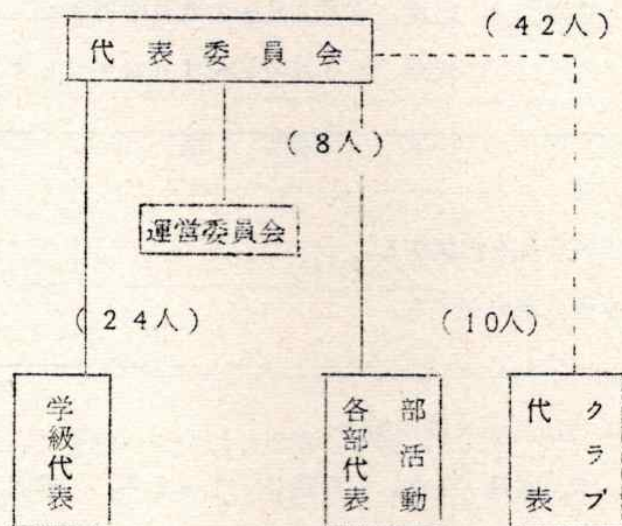
児童の代表が学校生活を豊かにするため、校内生活における全児童に関する諸問題をとりあげて、話し合いで処理する。

註・週番活動や校外生活の活動を含めることは、児童会活動のおらいからみて、問題があるだろう。

イ、組織と児童参加

(ア) 組織図(例)

註
 <世田谷区T校>
 (大規模校)



註 ○ 代表委員の人数は、40名ぐらいまでが望ましい。それに合わせた代表人数をきめる。
 ○ 代表委員は所属集団から選出されるが、その代表は全校の代表である。
 ○ 必ずしも学級代表、各部の部長でなくとも、話し合いによっては、各学級各部より他に代表を出すようにする。
 ○ クラブ代表は、必要のある時入れることとする。

(イ) 参加学年

3年以上の学級代表。部活動 各部代表。

<世田谷区M校の例>

註 ア、4年以上という学校もあるが、小中規模校では、3年以上が多いようである。

イ、4年以上の学校も、3年をオブザーバーとして加えているところもある。

(ウ) 期 間

2期制と学期制とがあるが、学期制の方が多いようである。

<世田谷区M校の例>

註 2期制は 前期 4月より～10月中旬まで

後期 10月中旬～3月末までとする。

ウ、運 営

(ウ) 代表委員を招集する。

(イ) 役員の選出をする。

<世田谷区M校の例>

註 ア、議長 1名。 副議長 1～2名。 書記 2名。

イ、児童の直接選挙で選出する。

ウ、代表委員の互選にする。

エ、選挙管理委員会を作って行なってもよい。

(ウ) 運営委員会の構成

役員と各部代表1名ずつ。

(エ) 記録の内容

○ 運営委員会の記録

第 回	運営委員会	月 日	議長	記録
でてきた議題	提 案	の	理 由	提 案 者

決 定 し た 事 項	
議 題	
• 提 案 理 由	
• 提 案 方 法	
• 他 の 議 題 の 処 理	

○ 提案用紙 わら半紙 $\frac{1}{2}$ 程度

月 日	
ていあん者の名前	年 組 名前 () 部
議 題 ぎ だい	
ていあんしたわけ	

各学級に配布しておく。提案箱のそばにも用意しておく。

エ、年間指導計画

年間指導計画には、最低予想される議題と、指導上の留意点、学校の関連行事を記入しておく。

<例世田谷区T校>

学期	予想される議題例	提案者	指 導 上 の 留 意 点	関連行事
1 年	○ 1学期代表委員 の選挙をしよう	児 童	○ 選挙管理委員会の仕事の内容 ・ 役割を指導する。 ○ 選出方法は指導計画の通りに やらなくても、児童が話し合 って決めるようにしたい。	○ 入学式
	○ 委員会の主な計 画をたてよう。	運営委員会	○ 各部・学級との関係をはっき りする。	

学期	予想される議題例	提案者	指導上の留意点	関連行事
1 学 期	○ 1年生を迎える会を計画しよう	児 童	○ 暖かいふんいきが出せるようにくふうさせる。	○ 小運動会
	○ 春の運動会の係りを決めよう。	児 童	○ 係りの人数は、教師側できめて提案する。	
2 学 期	○ 2学期の代表委員の選挙をしよう。	児 童	○ 前期の選出の反省に立って、実践計画をたてる。	
	○ 秋の運動会の係りの分担を決めよう。	運営委員会	○ 係りの人数は、教師側で決めて提案する。	○ 大運動会
	○ 学芸会の係りを決めよう。	運営委員会	○ 積極的に参加できるものを考えさせる。	○ 学芸会
3 学 期	○ クラブの発表会をしよう。	運営委員会	○ クラブの代表と児童会役員などで、実施計画をたてる。	
	○ 卒業生を送る会の計画をたてよう。	児 童	○ 五年生が中心になる。	○ 卒業式
	○ 来年の計画をたてよう。	運営委員会	○ 反省よりも計画が中心になる ○ 来年度どんな部をおくか意見をまとめる。	

--	--	--	--	--

註・代表委員会の構成を、組織の方では学期制としたが、役員を選出からすると疑問がのこる。選挙するとすれば、2期制がよいのではなからうか。

オ、指導上の留意事項

- (ア) 代表委員会の議題は、代表委員会前に、原案作成をする機関、(例・運営委員会・議題選定委員会)で整理し、調整する。
- (イ) 全児童の声が反映された委員会であるため、各学級に提案用紙を配布しておき、提案箱にいつも投函できるようにしておく。
- (ウ) 代表委員会と、学級会・校外生活指導の組織との関係をよく調整し、学級の自治を侵害したり、地区の子ども会の分野まではいらないようにすること。
- (エ) 各方面より出された議題について、よく話し合い、正しくとりあげるようにする。
- (オ) 議題のとりあげ方・話し合いの順序・実施計画の内容等について、教師は適切に指導助言をするようにする。
- (カ) とりあげられなかった議題の処理を適確にする。
- (キ) 実践活動との関係を重視し、むりな決定をすることなく、つねに実践と結びついた話し合いができるようにする。
- (ク) 生活集団を異にする代表の集まりなので、参加意識の高揚と人間関係を重視する。

カ、実施計画と記録

代表委員会の話し合い活動を効果的に運営し、実践化するために、運営委員会において、実施計画を児童とともに作成しなければならない。

例 <世田谷区T校>

第 6 回 代表委員会 10月17日(月) 図書室			
問 題		提出者	問題のしまつ
運営委員会に だされた問題	1.ボールの後しまつをきち んとしよう。 2.球技大会をしよう。 3.校庭の遊び物の区分けを しよう。	新聞部 4 年 6 年	○児童集会で発表する。 ○議題にする。 ○つぎの議題にまわした。
議 題	○球技大会をしよう。	話し合い の 役 割	議 長 市村三紀男 副議長 中野達也・藤井優子 書 記 長田 誠・岡野慶子
提 案 理 由	○球技大会をして、みん ななかよしになるう。	提 案 者	山本光利
話し合いのめあて	球技大会の種目と試合の方法を具体的に決める。		
話 し 合 い の 順 序		話 し 合 っ た お も な こ と	
1. 開会 2. いままでに出された問題について 3. 議題のたしかめ 4. 提案理由の説明 5. 提案についての質問 6. 原案について説明 7. 原案についての質問 8. 話し合い テーブルごとの話し合い 9. まとめ 10. 記録(決定したこと)を読む 11. 決定したことの承認 12. これからのしごと 13. 先生の話 14. 閉会		決まったこと	○種 目 ○試合方法 リーグ戦 ○進 行 集会部
		先生のご指導	○みんなができる種目を 考えたらいい。 ○どの学級とも交わえる とよいと思う。

(2) 部の活動

ア、内容

学校生活を向上発展させ、より楽しくするための仕事を分担処理していく自発的自治的実践活動である。

イ、組織と 児童参加

(ア) 学校生活の維持発展をめざし、あくまでも児童の自治的活動が展開されるように組織する。

- 環境に応じ 児童にとって活動しやすい組織づくりをする。
- 画一的・形式的でなく 弾力性に富む組織づくりをする。
- 部の数や種類については児童の希望を尊重する。
- 児童の希望をもとに入部指導し、人数の調節をする。

(イ) 組織の方法

- 参加学年は高学年全員(原則として5、6年生全員)とし、通年制をとりたい。

(註) 一年を二期にわけて所属を交替する方式をとる学校も多い。しかし、所属集団内の人間関係を密にし活動内容を工夫したり実践意欲を持続させるためには、むしろ一年を通して所属をかわらない方がよいと考える。

ウ、運営

(ア) 役員

部の運営を円滑にするために、代表として部長・副部長を互選する。また 必要に応じて書記やグループにわかれた場合の班長などを互選する。

(イ) 予算

前年度までの実績や反省・希望などを考慮して、はっきりした予算をもつようにする。

(ウ) 助言者

各部の指導助言者(担当教師)は最低2名が当たるようにする。

エ、年間指導計画

自発的・自治的実践活動を目ざす教育活動とはいえ、すべてが児童の手にまかせられるのではない。教師の計画的で継続的な指導が、特活の本質にそってなされなければならない。その指導のめやすとして 年間を見通した計画を教師の手でたてたものが 年

間指導計画である。

	予想される活動内容	指導上の留意事項	関連事項
放送部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部長・副部長の選出 ○ 年間の活動計画をたてる ○ 校内放送のしくみや、機械の操作を練習 ○ 放送計画に従って分担 ○ 番組編成について計画 ○ 小運動会に係りとして参加 ○ 放送番組についてアンケート ○ 行事にちなんだ放送の工夫 ○ 学級だよりなどの録音・放送 ○ 機械器具の調整・放送室の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動計画は、大まかな予定をたて、月ごとの実施計画をそのつどくわしくたてる。 ○ 放送器具がだれにでも扱えるよう全員に経験させる。 ○ 放送のマンネリ化をさけるため工夫させる。 ○ 他の部を有機的な関連をもつようにさせる。 ○ 過重負担にならないように指導助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始業式 ○ 入学式 ○ 児童朝会 ○ 小運動会 ○ 遠足 ○ 時の記念日 ○ 七夕 ○ 作品展 ○ 大運動会 ○ 学芸会
新聞部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞の内容や発行について話しあい計画をたてる。 ○ 仕事の分担と新聞の発行 ○ ニュースの記事のくみかた文芸作品の鑑賞や掲載のしかた等の研究 ○ 新聞社の見学 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動内や時間に無理がないように計画させる。 ○ 編集・印刷の基本的な知識・技能を指導する。 ○ 記事内容が学校生活からはなれたものにならないように特に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始業式 ○ 遠足 ○ 小運動会 ○ 子どもの日の集い ○ 七夕 ○ 終業式
飼育部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小動物飼育の分担や活動計画をたてる。 ○ 飼育菜園作りの計画と実施 ○ 餌箱の製作 ○ 飼育小動物の観察 ○ 飼育日誌の記入と全校への広報 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飼育小屋のそうじは負担過重にならないようにする。 ○ えさの与えかたなど必要な技術は指導する。 ○ 菜園作り、用具作り等は児童が主体的にとりくむよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バードデー ○ 動物愛護週間

	予想される活動内容	指導上の留意事項	関連事項
図書部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動計画をたて仕事を分担する。 ○ 図書の整理・修理・貸出し ○ 新刊図書の紹介。 ○ 読書傾向や図書の利用状況などを調査して知らせる。 ○ 読書感想文の募集と発表。 ○ 夏期開館と貸し出し。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事を理解させ、早く慣れるよう指導助言する。 ○ 計画や活動に無理のないようにさせる。 ○ 最低1週1回の貸し出しをするよう助言する。 ○ 夏休みの貸し出しなどは自主的にできるようにじゆうぶん話しあって計画させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書週間
掲示部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内掲示の計画について話し合い仕事の分担をする。 ○ 掲示に適当なものを収集する ○ 各部の標識を作る。 ○ 各部やクラブの作品等の掲示をしたり後始末をする。 ○ 作品展・運動会・学芸会などの掲示や装飾部門を担当する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単純な掲示・展示に終わらず掲示物・掲示場所などを工夫させ効果あるものにさせる。 ○ 代表委員会・各部とも連絡を密にするよう助言する。 ○ 活用してよい掲示場所を確保しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会 ○ 学芸会 ○ 展覧会 ○ 文化の日
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の計画をたて 分担する。 ○ ポスター・グラフなどによる健康安全の呼びかけ。 ○ 小さなけがの手当てのしかたを理解して活動する。 ○ 危険物の除去 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 治りようはごくかんたんなものだけさせる。 ○ けがの実態などを発表して健康安全の呼びかけをすることに気づかせる。 ○ 測定や検査の統計グラフづくりは強制しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期健康診断 ○ むし歯予防 ○ 運動会デー ○ 運動会 ○ 各種予防注射 ○ 体重測定

オ、指導上の留意事項

- (ア) 自治的・協力的な実践活動を目指す考えかたや態度を養い、計画や分担を適切にする。
- (イ) 活動に喜びをもつように活動内容や方法等の指導・助言を適切にする。特に、教師が当然行なうべきことや教師の補助にすぎないような仕事を強制することのないようにする。
- (ウ) 活動の結果よりも過程を重視して指導に当たる。
- (エ) 活動を活発にするために環境構成や必要な材料の整備につとめる。
- (オ) 活動が負担過重にならないような計画をたて、細部にわたって見通しがもてるよう指導助言する。特に、能力以上の活動を計画することのないよう留意する。
- (カ) 各部の活動が 全校的視野に立って実践されたり、有機的な関連がもてるように、部長会や代表委員会を通して連絡・調整する。

カ、実施計画

指導計画は、主として活動内容の基本的なわくぐみを教師の側で作成したものである。その実施にあたっては、いっそう具体的な計画をたてて実践化をはからなければならないが、特活の本質に於ては、児童を中心にしたてることが望ましい。これには、学期別年間実施計画や、月別実施計画などが考えられる。つぎにあげたのは ある月の実施計画とその記録の一例である。

第 回 月 日 曜 ○定例・臨時 (1時30分~2時15分)		
場所 (5の1) 出席者 児童(25名)・先生(2名) 記録(稲見薫)		
予 定	話しあいや活動の内容	準備・材料
	<ul style="list-style-type: none"> ○貸し出し班 貸し出しカードの整理 ○修理班 ラベルのとりかえ ○整美班 本の整理 ○調査班 読書カードの整理とまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ラベル ○カード ○集計用模造紙 ○マジック
	<ul style="list-style-type: none"> ○貸し出し班 貸し出しカードの整理 感想文募集のポスターを展示 	

記 録	<ul style="list-style-type: none"> ○ 修 理 班 ラベルをさがしてはった。ないのは新しく作った。 ○ 整 美 班 本の整理 「新刊書の紹介」欄をとりかえた。 ○ 調 査 班 前月の読書調査のまとめをした。
反 省	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本の整理がうまくできなかった。 ○ ラベルさがしがたいへんだった。全校に呼びかけてもらいたい。
先生 から	<ul style="list-style-type: none"> ○ 係りの交替をしたほうがよいのではないか。

(3) 児童会の集会活動

ア、内 容

- 集会を、定例の集会と、年間計画による集会とに分ける。

(ア) 定例集会で、予想される活動内容の例

- 代表委員会の予告や、きまったことのお知らせ。
- 各部よりのお知らせ、おねがい、れんらく。
- 学級からのおねがいや、学級会活動の発表。
- クラブの紹介や、発表。
- 合唱、合奏、ゲーム等。

(イ) 年間計画による集会で、予想される活動内容の例<練馬区五小の例>

児童会活動として実施するもの、または学校行事等の年間指導計画のうち、その実施計画、運営を児童会にゆだねるもの。

- 一年生を迎える会。
- 創立記念日の前日のつどい。
- 運動会応援練習の会。
- 勤労感謝の日の前日のつどい。
- 卒業生を送る会。

イ、組織と児童参加

- (ア) 集会の内容によって、全校児童の参加と、学年別参加の集会が考えられる。

- 学年別の場合は，1学年または，低学年，高学年別のものや，近接学年のものがある。

(イ) 計画，実施のため，集会部（集会委員会）をおく。

ウ、運 営

(ア) 集会部は，事前に必ず部会を開き，会の内容をきめ，司会・進行・発表等の分担をはっきりし，特に発表者には，必要に応じて練習などをさせておく。

(イ) 計画・実施にあたっては，常に代表委員会，各部会，クラブと連らくをとる。

(ウ) 予定された時間内で終われるような計画を立て，実施をする。

(エ) 計画がマンネリ化しないように気をつける。

(オ) 年間計画による集会の計画は，代表委員会で話し合っ立てることもある。

- 集会部が原案を作り，代表委員会に提案して，修正・承認を受ける。

エ、指導上の留意事項

(ア) 児童の企画や，アイデアを尊重するが，計画が無理になったり，集会部が一般児童の希望や，学校の許容事項とかけはなれないように指導助言をする。

(イ) その集会に関係ある部，学級，教師などと連らくを密にし，特に放送部との連絡をじゆうぶんにとって，集合時に空白の時間を作らせないような配慮をする。

(ウ) 集会の際，全教師は，特別教育活動の本質にもとづいて，指導にあたる。

オ、活動の年間指導計画と実施計画

集会活動の年間指導計画も代表委員会や部の活動と同じつぎのような形式と内容としたい。

(ア) 年間指導計画

期	予想される活動例	指導上の留意点	関連行事
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会役員，各部長等の紹介 ○ 部のしごとについてのお知らせ ○ 代表委員会の予告と決定報告 ○ 1年生を迎える会 ○ クラブ紹介 ○ 学級からのお願い ○ 各月の愛唱歌（月2曲） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 司会・進行・自己紹介のしかたを指導する。 ○ 聴覚だけでなく視覚にも訴える。 ○ 1年生を暖かく迎える。 ○ 愛唱歌集などの活用を考慮する。 	入学式

	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲーム等 		
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○代表委員会の予告と決定報告 ○学級活動の発表 ○運動会の応援練習 ○児童会役員，各部長等の紹介 ○各月の愛唱歌 合奏等 ○勤労感謝のつどい ○ゲーム・クイズ等 ○各部よりのおねがいや，お知らせ 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任ともよくれんらくさせる。 ○応援リーダーをよく指導する。 ○招待される「学校のおじさん，おばさん」を暖かく迎える。 ○お知らせや，おねがいはよくまとめて効果的に発表させる。 	運 動 会
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○各部よりのお知らせ，お願い ○代表委員会の予告と決定報告 ○クラブ活動の発表 ○各月の愛唱歌 合奏 ○学級からのお願いや，学級会活動の発表 ○卒業生を送る会 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラブ発表は，外の集会だけでなく種類によっては，室内の集会にすることもあ る。 ○寒いときは，手こすり，天つき運動などを入れる。 ○次第に5年生が運営の中心になっていくようにする。 	卒 業 式

(イ) 実施計画の例

(実施計画の説明は、部の活動のらん参照)

第24回 児童会集会実施計画		実施日	10月26日 水曜日	
受けもち	集合・整列	千葉	朝のあいさつ	宗 司会・進行 恒川
だれが	どんなことを		時間	じゆんび
飼育部長 (秋山)	1. うさぎのえさあつめについて (1) 家にある野菜くずを持ってきてほしいこと。 (2) おいておく所, もってくる日と学年割当		3分	○集めたいえさの実物見本 ○割り当て表
図書部長 (石森)	2. 新しい本のしょうかいと, 読書週間について〔感想文の募集について〕		5分	○しょうかいする本のカバー ○感想文の例文
音楽クラブ (西村)	3. みんなの歌 10月の愛唱歌「野原で手をたたけ」 「おなかのへるうた」		4分	○歌集 P101, 96
反 省 (集会後すぐを書く。校時外にかく。)				
<p>1. 集会のようす ○はじめ, 4年生のうしろが少しさわいでいた。</p> <p>2. 会のすすめ方 ○発表のとき, 少しあわてていた。司会者は朝礼台にのぼりっぱなしでもよい。……(司会しないとき, しやがむこと)</p> <p>3. き き 方 ○よかった。</p>				
先生から	○後期にかわったばかりとしては, よくできました。がんばろう。			

7. 評 価

児童会活動の評価には、教師側の計画や指導の評価と、児童の活動の評価が考えられるが児童の自発的・自治的実践活動こそ、特活のねらう最も大切なことであるし、児童の評価が適切に行なわれることによって、教師の側の評価もよりよくできることになろう。

だから、ここでは、児童の評価のみについて述べる。

(1) 児童会活動全般の評価の観点

ア、児童の評価

- ㊦ 集団の中で、協力し、協調的に進める態度が高まったかどうか。
- ㊧ 進んで参加して、分担したことに責任をもって、実践したかどうか。
- ㊨ じぶんたちで計画したり、くふうしたりしようとしているかどうか。
- ㊩ 所属集団や相手の立場にたって考えようとしているかどうか。
- ㊪ 学級会活動と児童会活動等の関連をもった活動がなされたかどうか。

(2) 代表委員会の評価

ア、児童の評価

- ㊦ 議題を積極的に出したかどうか。
- ㊧ 全校的視野にたって発言できたかどうか。
- ㊨ 所属の代表という自覚と責任をはたしたかどうか。

(3) 部の活動の評価

ア、児童の評価

- ㊦ 喜んで活動に参加したかどうか。
- ㊧ 協力して仕事をしていこうという意識や話し合いがみられたかどうか。
- ㊨ 自分の仕事に対して、自覚と責任をもって行なっているか。
- ㊩ みんなで、楽しく力をあわせて仕事できたかどうか。

(4) 集会の活動の評価

ア、児童の評価

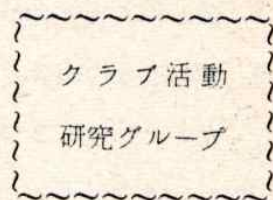
- ㊦ 企画・運営は、議長と部などの連絡がうまくとれて、よくできたかどうか。
- ㊧ 全校児童の多くの者がよろこびを味わったかどうか。
- ㊨ 学年が違って、おたがいによるこびあい、はげましあい、助けあうような気持ちが育ったかどうか。

執筆者

千代田・淡路小	(副部長)	小倉一郎
墨田・隅田第二小		大西弘
世田谷・塚戸小		北村孝夫
品川・日野第三小	(副部長)	小林順一
港・桜川小	(部長)	外村近
練馬・光和小		沼田定次

Ⅲ 自主性を高めるクラブ活動の指導計画と実施計画

1. クラブ活動の指導計画



(1) 基本方針

クラブ活動は、内容が各教科に似ているために、ややもすれば、細部にわたって教師がたてた意図的な指導計画が強くだされて、児童の活動をすすめようとする傾きになりがちである。しかし、クラブ活動は、児童の共通の興味・関心が基盤であり、計画や、運営の主体を児童に置きながらすすめていく活動であることが基本である。

そこで教師のたてる指導計画は

- 各校の実状に応じた、クラブ活動の実績を土台とした計画であること。
(過去の経験・記録などを資料として、施設・設備・時間のとり方などを検討し、おおまかな年間の計画にする。)
- 小学校教育というわくぐみの中で、児童の持つ興味や、関心をできるだけ尊重した計画にする。
- 児童が実施計画をたてる際、クラブ員相互の創意やくふうがじゅうぶん加えられるような計画にしておく。

(2) 作成の手順

新年度の発足を円滑にするためには、前年度末、3月に作成されることが望ましい。

ア、一年間の活動の実態から考えられる問題点を全職員からだしてもらおう。

- (ア) 構成人員 (人数・男女の配分など)
- (イ) 各クラブの指導計画と実施計画について
- (ウ) 実施時数と児童の活動に無理があるか、どうか
- (エ) 施設、設備などの改善くふうを要するものはないか
- (オ) 経費の支出方法について
- (カ) 指導者の各クラブへの配置人数や、担当のしかたについて
- (キ) そのほか

イ、研究部会で問題点を類別し、現在の指導計画の改善点や、新しく加えたいことがらを検討する。

ロ、原案を職員会にかけ、さらに具体的な検討を加え、新年度のクラブ活動をどのように

すすめていくか周知徹底させる。

エ、全体の計画は、研究部で作成し、各クラブの年間指導計画は、年度始めに、組織決定後、相当指導者が作成するのがよいであろう。

(3) 指導計画の内容（指導計画として具備すべき内容）

大きくわけて2つのものがある。自校のクラブ活動を実施していく上に、学校としてたてる全体の計画と、組織決定後に、それぞれのクラブが活動を展開するに必要となるクラブごとの計画である。

ア、全体の計画

(1) 入部指導の計画

クラブ活動が活発になるか、ならないかの一つの鍵は、入部指導がしっかり行なわれているどうかにあるといってもよい。したがって、入部指導については年間のみとおしをたて、きめこまかな入部の計画を考え指導にあたることがたいせつである。

○ クラブ選択以前の指導（さまざまな角度から、年間を通してクラブ活動の実態を具体的に視覚や聴覚を利用して理解させる。）いくつかの例をとってみると、

- 各クラブの活動状況の紹介（全校児童集会、児童会広報部の利用や、クラブの活動内容が目で見えてすぐわかるような設備などをくふうする。）

例 クラブコーナーの活用計画

① 場所の検討 全校児童の目につくとこれに設置する。

② 設備 陳列ケース、掲示板の公費購入。

③ 活用のしかた

- 月交代で展示物のくふうをする。
- 月の責任者（教師）をきめる。
- クラブごとに、かってに展示せず、その月の責任者へ申しこむ。
- 責任者の交代日をきめておく。
- 各クラブから児童一名（部長）を、コーナー運営委員としてだす。
- 展示は、運営委員の創意やくふうを前面にだし、教師は相談相手になる。

月	4 月	5 月	6 月
クラブ名	卓 球	野 球	音楽・美術
責任者名	2 名	2 名	2 名

- 責任者は、その月の展示担当になったクラブの教師（2名～3名）

• クラブ発表会

自分たちで計画し、計画にそって実践した成果を発表することは、クラブ相互の理解と共に、来年度への入部案内につながるものとしてたいせつな要素をもっている。計画の中には、つぎのような内容をもりこんでおく。

- ① 実施回数 ② 期日（何月ごろというめやす。）
- ② 期 日 （何月ごろというめやす。）
- ③ 実施時間 （クラブの数や、一クラブの発表時間を考える。）
- ④ 発表の方法 （演技をみせるクラブ、展示だけのクラブ、校庭使用のクラブなど、児童が実施計画をたてる時、参考になる資料を用意しておく。）
- ⑤ 参加学年 来年度入部する学年を特に考慮する。
- ⑥ 会の運営 クラブ代表による運営委員会を構成する。
- ⑦ 経 費 公費でくむ。
- ⑧ 父母の参観 （クラブ活動の楽しさを知らせ、認識を深める。）
- ⑨ 発表会終了後の処理

• 来年度入部予定学年児童の調査

例1 感想文（クラブ活動への興味、関心の度合いや、傾向を知る手がかりとする。）

例2 クラブめぐりや、希望しているクラブへの一時間参加などをする。

- 父母の調査（感想文）クラブ活動への認識を深め、家庭においても、児童の特性をたいせつにした入部の相談に応じられるようにする。）

○ クラブの選択指導

上記の例のような年間積み上げたクラブ活動の紹介により、児童の心の中に育ちつつある興味や、関心を土台として、新年度さらに組織までの手順を検討し、適切な選択ができるように指導する。手順としては、次のような方法がある。

↓	希 望 調 査	<ul style="list-style-type: none"> • できれば前年度末に実施する。 • この調査をもとにして、クラブの数や、種類決定の資料とする。
	クラブの数や、 種類の決定	<ul style="list-style-type: none"> • 学校の規模により参加学年の人数や、担当教師の人数などが大きくかわりをもってくるが、できうる限り児童の希望

		を生かし、教師が歩みよることがたいせつである。
	活動の案内	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の活動例を具体的に書きあらわし印刷する。4月当初のクラブ活動の時間は、主として選択指導の時間にあて、担任と話し合いの場をもつ。質問や意見の交換をさせ、自分の選びたいクラブを考えさせる。
	各クラブの宣伝期間を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 新六年を中心に、クラブの特色や、楽しさを発表させたりポスターを展示させたりする。
↓	入部申し込み	<ul style="list-style-type: none"> 第二希望ぐらいまでとる。迷っている児童への助言をする。 希望した理由を記入させる。(調整の必要を生じたときの参考資料とする。)
↓	希望者の調整	<ul style="list-style-type: none"> 無理な調整はさける。 実施可能な限り、第一希望を尊重する。 調整の方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> A 集中した場合……いくつかの班に分かれる。 B 少ないが、同傾向で合併可能な場合……合併し、年間の計画の中で、両者の希望を生かすようにする。 C 担任が、個々の児童とじゆうぶん話し合い、第二希望のものほかに、いくつか、推せんし、最後の決定は、児童にさせる。(機械的に調整することはさける。)

❖ 発足を急がず、新学期のはりきった学校生活の中で、選択指導が、児童の活気のある期待と相待って、じっくり行なわれるように配慮したい。

(1) 組織

- 参加学年 (学校の実状によって異なってくるが、指導書にも中学年以上とあるのでできる限り4年以上の参加の計画をもつことがよいと思う。調査の結果では、5, 6年参加の計画が割合多い。)
- 所属変更 (部活動と半数交代で実施しているところや、前期・後期で、所属クラブを変えて実施しているところもあるが、原則として年間同じクラブで活動させることの方が充実したクラブの運営ができる。)
- 指導体制 (教師の特技に重きをおく活動ではないから、全職員が参加することが

望ましい。教師・児童一体となって、活動を楽しみ盛りあげ、クラブ活動を体験を通して理解していくことは、好ましいクラブの伝統をつくり上げていくもとにもなる。

(ウ) 時間配当

どの学校でも悩んでいる点である。そのため、さまざまな形がとられている。

○ 固定時間のとり方

- 一週1時間(45分単位)。
- 隔週1時間・2時間継続。
- 月1回・2時間継続。
- 月3回・1回は部活動。

上記のように、いろいろな方法で実施されているが、実施計画にそって、活動をすすめやすくするには、毎週1時間の固定時間をとる方が活動しやすいようである。

○ 曜日のとり方

これも、さまざまであるが、祝日にあたらない限り、殆んどつぶれることもなく出張もない曜日は水曜日である。

○ 年間時数

まとまりのある活動にするためには35時間を確保したい。

児童が主体となるものであるから、1年間のみとおしは無理と考え、時間数をおよそのわくぐみで、前・後期に分けて、実施計画がたてやすいようにしてやることも一つの方法である。

(四) 経費・公費支出を主とする。したがって、年度当初の予算割当に際しては、他の教科と同様に、支出希望の内容や、金額を提出し、学校全般の必要性と対比して考えていく。(製作を主とするクラブの個人製作物は、個人負担がよい。)

- クラブ活動全般に必要なもの
 - それぞれのクラブで必要なもの
- { (年間のおよそのみつもりをしておく。)

イ、各クラブの指導計画

(ア) 年間指導計画

組織決定後、クラブごとにたてる教師側のおおまかなわくぐみで、実施計画ではない。実施計画は、児童が教師の助言を得ながらたてる計画であるのに対し、年間指導計画は、実施計画がより具体的にたてられる手がかりとなるものである。したがって次のような観点から作成されることが望ましい。

- 前年度の資料をもとにして，前年度の実績と児童の実態をつかむ。
- 児童の希望が受け入れられるようにしておく。
- 固定的な計画でなく，実状により，いつでも変えられるようにしておく。
- 内容が教科的色彩が強かったり，補習的な内容になったりしないように配慮する。

(1) 年間指導計画の内容

項目	どのような内容を必要とするか	例 (あみもの)
目標	教科の学習とは異なることをふまえ，クラブ活動の特質にそった目標をたてる。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ あむことの技術を身につけながら楽しく製作させる。 ◦ 創意やくふうを生かして実用的なものを作ったり，互の作品を鑑賞することにより，共同研究のよろこびを味あわせる。
予想される活活	教師のもつ大まかなわくぐみであるから，児童の要求によっては，変えることもできるような弾力性を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 活動について話し合い計画をたてる。 ◦ あみものの基本研究をする。 ◦ 個人の自由題材での製作や，共同製作などをする。 ◦ 展示・鑑賞・反省をする。
留意事項	そのクラブだけに必要な留意事項。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 製作することが多いので，できるだけ話し合いの機会をもたせる。 ◦ 金額の多くならないように，製作物を考えさせる。 ◦ あみものの参考資料を集め，活用するようにしむける。
評価の観点	そのクラブだけにある評価の観点。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ どんなところをくふうしたか。 ◦ よく教えたり，教えられたりできたか。 ◦ 自分の計画に満足できたか。

備考	年間の経費のみつもりをするもの ・共同製作・個人製作。 ・クラブごとの消耗品や備品など ・そのほか	・毛糸，レース糸，ラシヤ紙，マジック，セロテープ。 ・共同製作品は学校へ記念に残す。
----	--	---

卓球クラブ年間指導計画例

1. 目標	(1) 卓球を通して，クラブ員が互に協力し，自発的に計画・運営にあたり，生活を豊かにする。 (2) 練習試合を通して，互に助け合い，楽しく運動をする。								
2. 予想される活動	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 活動について話し合い計画をたてる</td> <td style="text-align: right;">2時間</td> </tr> <tr> <td>(2) 練習や試合をする</td> <td style="text-align: right;">29時間</td> </tr> <tr> <td>(3) 発表会をする</td> <td style="text-align: right;">2時間</td> </tr> <tr> <td>(4) 計画・運営・活動について反省する</td> <td style="text-align: right;">2時間</td> </tr> </table>	(1) 活動について話し合い計画をたてる	2時間	(2) 練習や試合をする	29時間	(3) 発表会をする	2時間	(4) 計画・運営・活動について反省する	2時間
(1) 活動について話し合い計画をたてる	2時間								
(2) 練習や試合をする	29時間								
(3) 発表会をする	2時間								
(4) 計画・運営・活動について反省する	2時間								
3. 留意事項	(1) あまり高度の技術を要求しない。 (2) 用具の準備や後始末を徹底させる。 (3) 交代を公平にし，練習量を同じにする。								
4. 評価の観点	(1) 練習や試合はよくできたか。 (2) 協力し合って楽しく活動できたか。								
5. 備考	ネット，支柱5組，軟球・硬球3ダース								

(4) 一単位時間の指導案

児童のたてた実施計画にもとづいて教師がたてる案である。例を引用して指導案と

して必要な内容を掲げてみると次のようである。

例・あみものクラブ指導案

指導員	○○○○ ○○○○				
クラブ員	6男	6女	5男	5女	計
	0	5	0	16	21

1. 活動の題材 共同による記念品づくり
2. 実施計画

予想される活動内容	教師の助言
2時間 話し合い(題材の活動予定)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無理のない計画をたてるようにする。 ○ グループの編成は希望だけでなく、今までの経験から考えて分ける。
3時間 グループで個人別にモチーフをあむ。	
4時間 グループ内でモチーフあみと、つなぎあみに分かれて活動する。……(本時)	
1時間 仕上げをする。鑑賞・反省をする。	

3. 本時の活動

- 指導のおらい グループごとに仕事を分担し、なごやかなふんいきの中であませる。

活動のめあて モチーフあみと、つなぎあみにわかれてあむ。	
予想される活動内容	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとの話し合いをする。(仕事の分担について) ○ 話し合いの終わったところからあむ。 ○ まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事の分担は、おたがいに納得いくように話し合わせる。
<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モチーフつなぎがスムーズにできたか。 ○ リーダーを中心として、おたがいに教え合って活動できたか。 	

- 備考
- 主として本時は作業場面(グループ)
 - 前期は、かぎ棒あみと二本棒あみにわかれていたため、後期になってかぎ棒のはじめての児童が10人ほどいる。

(3) 指導計画作成上の留意事項

ア、資料 児童の自発的・自治的活動を活発にしていくような組織や運営をさせるには前年度の反省や記録が重要な資料となる。前年度活動しやすかった面、困難をきたした面などを本年度作成の手がかりとする。

イ、施設・設備 校内にある施設・設備で直接クラブ活動に関係のあるものにつき、不備な点を補う処置を考える。

ウ、経費 クラブにより異なるので、年間指導計画をたてるとき、およその予算をくんでおく。共同で使用する材料、用具の経費については公費配当計画をたてる。

2. 実施計画

(1) 作成を指導する観点

ア、作成にあたっては、あくまでも児童が主体であるが、すべて児童自身だけによって作成されるものではなく、教師の指導計画に基づく指導が必要である。

イ、活動の内容は、過去における実施の反省に基づき、内容を選定し、学期・月などに配当させる。

ウ、活動の内容は、すぐ実施できるように、進め方、個別活動かグループ活動か、活動の過程や進度、要領等、具体的に示されるようにさせる。

エ、計画・実践・反省・発表会等の時間的な配慮がなされていなければならない。

オ、実施計画にもられる内容としては

(ア) 活動内容 …… どんなことを、どんな方法で。

(イ) 時 間 …… いつごろ、何時間くらいかけるか。

(ウ) 活動組織 …… 個別か、グループか、グループもどのような構成か。

(エ) 準 備 …… 材料と用具その他

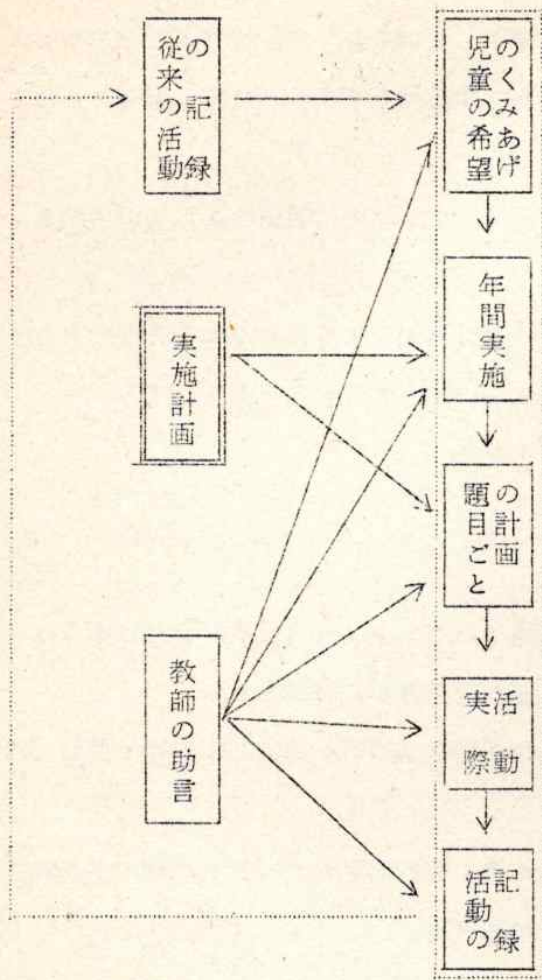
(2) 作成の手順

実施計画を二つに分けると次のようである。

ア、大まかな年間の見通しをたてるいみの年間実施計画。

イ、年間実施計画から題目ごとの実施計画

作成は次のような手順をふむことがよい。



- 年間やって見たいもの
- 整理
 - ・活動題目
 - ・時間数
 - ・活動組織
- 年間の活動題目から
 - ・月日
 - ・活動内容
 - ・方法
 - ・時間
 - ・経費
 - ・準備
- 1時間の活動
 - ・出欠
 - ・話し合い
 - ・活動
 - ・話し合い
- 個人カード
 - ・予定, 実施したこと
 - ・反省

参考資料

(3) 演劇クラブの実施計画 <新宿区Y校>

次に実施計画の内容を検討するために、指導計画、年間実施計画、題目ごとの計画と記録と、一連の計画の例をあげてみよう。

ア、年間指導計画の例

(演劇クラブ)

指導のねらい

- なごやかな楽しい気分で活動できるふん囲気を作りたい。
- 各自の特性を生かした表現のものができるようにしたい。
- 演出のくふうをさせるようにしたい。
- かみしばい・放送げき・人形げきの活動にしたい。

予想される活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動について話し合い計画を立てる。 (3時間) ○ 脚本をえらびかみしばいをする。 (6時間) ○ 低学年集会で発表する。 (7月予定) ○ 自分たちで作った脚本で放送げきをする。(8時間) ○ 高学年集会で発表する。 (10月予定) ○ 人形げきをしよう。 (15時間) ○ 卒業生を送る会に発表しよう。 (3月予定)
材料および経費	<ul style="list-style-type: none"> ○ 白ボール紙 ポスターカラーマジック ○ 更紙 げん紙 ○ ペニヤ板 布きれ 厚紙 新聞紙 糸 経費700円位
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画をしっかりと立てさせ、自分たちできめた仕事は最後までやりぬくようにさせたい。 ○ お互に助け合って進めていくようにさせる。 ○ クラブ内の活動を通して親ぼくをより深めたい。 ○ いろいろの題目を経験させてくふうさせたい。 ○ できるだけ廃物利用などで行なわせたい。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人形は次年度の参考に資料室に保管。

○ 月別配当時間

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	計
時	2	4	3	2	3	4	4	2	3	3	2	32

- 月曜日最終6時間目
- 毎月最終月曜日部活動

イ、年間実施計画の例

(演劇クラブ)

月	実施予定	備考	社会・学校行事
4	(2) ○ 演劇クラブについて話し合い 1年間の計画を作ろう。	3	
5	(4) ○ 三びきの子ぶたの人形げきの 脚本をつくろう。	3	○ 図書室の脚本集からグループに分かれてする。
6	(3) ○ 人形づくりをしよう。		
7	(2)		
9	(3) ○ せりふの練習と操作の練習を しよう。	3	○ 係りをきめて練習をする
10	(4) ○ 人形げきの上演をしよう。	5	○ 低学年集会に上演しよう
11	(4) ○ ヘンゼルとグレーテルの脚本 をつくろう。	4	○ グループに分かれて場面ごとに製作しよう。
12	(2) ○		
1	(3) ○ 人形をつくろう。	5	○ 人形と小道具に分けてしよう。
1	(3)		
2	3 ○ 上演しよう。	5	○ 高学年集会に上演しよう
3	2		

この年間実施計画は、児童たちが主体となつてたてるのであるが、指導計画に基づいた教師の指導が加えられ、一応の見通しをたてるのに役立つものである。

したがって内容は 月・時間・実施予定の題目を主とし、それに方法も加えられたらつけておく程度でいいのではないだろうか。

この年間スケジュール的な実施計画には、学校や社会の行事なども考慮できるようまえて印刷しておき、各クラブに配るようにするとよい。

なお、計画の変更にあたっては、どんどん朱筆を加え、次年度の資料としてとっておくようにする。

ウ、題材ごとの実施計画の例

題材 人形げき(三びきのこぶた) 予定15時間 活動組織(グループ全員)

月日	実施予定	準備	月日	実施した活動の記録	反省
5.10	活動計画について話し合う	脚本集	5.10	活動計画について話し合いグループに分かれて三びきのこぶたを読む	脚本3さつグループに分かれてよむ
5.17	脚本の台本をつくる	ガリ板 げん紙 鉄筆	5.17	グループに分かれてページをきめて原紙をきる	ページをきめてげん紙をきる。早いところおそいところができた。
5.24	〃(印刷する)		5.24	脚本を印刷製本した	できたところから印刷し流れ作業で製本した。
6.7	人形をつくる (首・手)	ボール紙, 新聞紙, 糸, 人形見本ふのり	6.7	ハガキ厚紙で指に入る太さにまめるめりづけした(手, 首) 新聞紙をもんで芯にしてまわりに紙ねんどで耳, はなをつけた	グループで作る人形をきめた紙ねんど作り, 芯づくりかお作り, なかなかうまくいかない。
6.14	人形に着色する	ポスタ ーカラ ー	6.14	話し合いをして着色した	紙ヤスリでこする

月 日	実施予定	準 備	月 日	実施した活動の記録	反省
6. 21	着物をつくろう	布, 針 糸	6. 21	かたがみをつくる手のひじの長さにする首, 手をぬいつける	とこわれ るのがで きた。 色をぬる のがむず かしい。 おくれて いる手伝 をした。
7. 7	人形のうごかし かた	舞 台	7. 5	グループごとに練習する 歩き方 おじぎのしかた 泣き方 笑い方	先生から 動かし方 をもう少 しくふう するよう にいわれ た。
7. 12	人形のうごかし かた		7. 12	みんなができるよめにかわるが わる練習する みんなの人形を見せあった (2学期まで学校におく)	みんなじ ようずに できた。
9. 6	人形にあわせて せりふの練習	テーブ レコー ダー	9. 6	人形にあわせてせりふの練習	人形と声 がうまく あわない 練習して くる。
9. 13	録音をとる	ぎ音レ コード テーブ レコー ダー	9. 13	テーブにふきこむ	
9. 20	小道具を作ろう	ボール 紙, ポ	9. 20	家, ボール紙できりぬき色をぬ る。木や草も作る	できない グループ

月 日	実施予定	準 備	月 日	実施した活動の記録	反省
10. 4	そう置を作ろう	スター カラー もぞう 紙 釘, 舞 台		早くできた人そう置のじゆんび をする	を手伝っ た。
10. 1 1			10. 1 1	人形のうごかし方がむずかしい のでかわるがわるにする	みんない っしょう
10. 1 8	総合練習をす る	テーブ 舞 台		見る組とやる組にわけてする	けんめい やったの でじよう ずにでき た。
10. 2 0	低学年集会に上 演しよう				

前例 年間実施計画の5月～10月までの一まとまりの活動について、より細かく、計画をたてたものが、(3)題材ごとの実施計画である。

ここには月、日、実施予定、準備と明確に計画がたてられるようにする。同時に、活動の記録を加えて一らん表にしていくと、計画の変更や、活動のようすがよくわかり、積みあげていく、実際に役立つ実施計画ができるのではないだろうか。この用紙は画用紙に印刷し、グループもちとしてグループで相談をして、リーダーが記入するようにするとよい。クラブ担任教師は、実際活動時の指導のほか、この計画表、実施記録をもとにして指導することができるわけである。

エ、1単位時間の実践例

「三びきの子ぶた」の人形げきをしよう(41年6月7日活動例)第4時

実施予定	活動のようす
<p>(本時の予定)</p> <p>人形をつくる。</p> <p>首・手</p> <p>(見本を見ながら)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出欠を調べる……出席表記入……部長 ○ 本時の予定……人形をつくる仕事の順を話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・ 人形は本番と予備と二個ずつ作る……(10個) ○ 仕事のしやすいように分割する <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで作る人形をきめ3個ずつ作る……(5人グループ) ・ Bグループは4個 (自分から申し出た) ・ かみねんどを作るものをきめる(準備を忘れた子) ・ A 子ぶた(3) B おかあさん(2) おおかみ(2) ・ C 子ぶた(3)
<p>実際活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで首と手をつくるものに分ける ○ はがきで指のはいる太さにのりづけする……(芯づくり) <ul style="list-style-type: none"> △ のりづけをよくしないと途中ではがれ人形の操作がしにくい ○ かみねんどを作るもの — 新聞紙をぬらしちぎりながらねんど作り, ふのりをいれる。 <ul style="list-style-type: none"> △ こまかくちぎり棒でこずいた方がねんどになりやすい。 ○ 新聞紙をもんで芯のまわりにつけ糸でしばる。 <ul style="list-style-type: none"> △ 大きさがまちまちでよいかどうか。 ○ グループごとに相談して大きさをきめて作業をつづける。 ○ できたねんどを芯の上につけ首をつくる。 ○ ねんどを当分にわけてやっていた △ ちようどよいねんどだね。 <ul style="list-style-type: none"> △ とくちようのある表情にしよう △ でき上がった首のかわかしかたのくふうをしてみよう ○ スタンド(理科)をかりてきてかわかす
<p>話し合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の反省 次週の予定の話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・ 人形の見本があったことは役立った。製作過程, 新聞紙をもんで糸でしばる操作はむずかしい。糸は太い方がよい ・ Bのおおかみ特徴が出ていてよい。口のところむずかしい。S君にやってもらった。Cの子ぶた大きすぎたようだ。おかあさんにして使えばよい。・ぞうきんの用意がほしかった。 ○ 次週着色
<p>個人カード記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人カード記入 あとかたづけ

実施計画の中から、6月7日の実践例が上記である。ここでは、本時の計画から実際活動をして反省のための話し合い、個人カード記入とあとかたづけまで児童たちの手によって活動がすすめられるよう、計画を十分たてておくことが必要である。次に個人カードの例をあげてみると、

オ、個人カードの例

題 材(人形劇三びきの子ぶた)

○年○組 氏名 ○ ○ ○ ○

月 日	予 定	実施したこと	反 省	先生のことば
5.10	活動計画について話し合う	三びきの子ぶたを読む。グループで	読み手になったがつかえたところがあった	
5.17	台本をつくる	Aグループ3ページ10行かく	字がうまくかけない	もう少し強くかくとよい
5.24	"	Aグループでき上がり印刷した	5部まらがえてとめてしまった	
6.7	人形をつくる	見本の人形を見ながらつくった(子ぶた)	わりとよくできた	先生にほめられた
6.14	"	顔に色をつけた	少し茶色が多かった	

記録は、主体的な活動を促進するうえで、また、教師の指導助言、評価を適切にするうえで是非必要である。そのために学級担任教師は、必要に応じて、カードを集め個別指導をするほか、評価やクラブ担任との個別的な連絡の材料とするわけである。

(4) 実施計画作成上の留意点

ア、実施計画は児童が主体で作られるが、活動実施の上で不適當なものがでてくる場合があるので教師の適切な助言で整理させながら活動しやすいものにしていく。

イ、一年間の活動題材の見通しを立てる。

ウ、クラブ活動組織を考慮する。

エ、年間時数(32時間)活動組織、題材の相互関係から年問題材の決定をする。

オ、題材の活動を月別に配当し材料用具を備考に合わせていく。

カ、一年間の最初の何時間かで話し合い年間計画をきめるが、その間のグループの中での個人活動にも目を向ける。

キ、長期計画なので活動過程での修正の場合があるので弾力性をもたせる。

ク、活動内容そのほかのことで全員一致でない場合は全員の理解がふかめられるよう助言する。

(5) 科学実験クラブの例(北区赤羽西小) <指導計画と実施計画の関連>

ア、年間指導計画

(ア) 目 標…クラブ員が互いに協力し合って、自治的自発的に、実験計画をたてたり、実験を行なうことによって、一層興味関心を深める。

(イ) 活動内容…理科室で学校にある実験器具を使ってできる、石けんづくりや、青写真づくりなどの計画と実験をする。

(ウ) 予想される活動

1 学 期	時	2 学 期	時	3 学 期	時
○活動の組織をつくる(自己紹介・部長をきめるグループをつくる)	1	○ガラスをとかして器具をつくる	2	○毛管現象	2
○年間実施計画をつくる	1	○結晶づくり	3	○電じしやく	4
○顕微鏡で小さなものを見る	2	○青写真づくり	3	○発表会の準備と発表	2
○石けんづくり	2	○発表会の準備と発表	2	○反省	1
○グライダーづくりをして飛び方を調べる	5	○葉の葉脈をしらべる	3		
		○土の酸性			

(エ) 材料・経費など

- 実験器具は理科室にあるものを使用させる。
- 共同で使用する薬品・材料等の費用は公費支出とする。
 実験用薬品類・材料…… 1,600円 模造紙…… 200円
 マジックインキ…… 200円
- 個人用の材料費は個人負担とする。
- 劇薬類・高電圧などを使用する実験は、なるべくさけるか、教師が必ずその安全について配慮する。
- なるべく、グループの共同作業ができるものをとり入れさせる。
- 実験の結果はそのつど記録して反省させ、次の計画や実験に役立てる。

イ、年間実施計画

月	おもな活動	時	備考
4	○自己紹介 部長・副部長をきめる グループをつくる	1	
	○年間の実施計画をつくる	2	○紙・マジックインキなどを買う
5	○顕微鏡で小さなものを見る	2	400円
	○石けんづくり	2	○原料 100円
6	○グライダーの飛び方	5	○原理を調べてから設計してグライダーの模型をつくる
7			材理 500円
9	○ガラスをとかして器具をつくる	2	
	○結晶づくり	3	
10	○青写真づくり	3	○薬品 500円
	○発表会の準備	1	○模造紙にまとめる
11	○発表会	1	
	○土の酸性を調べる	2	
12	○葉の葉脈を調べる	3	
1	○毛管現象	2	
2	○電じしやく	4	○材料 500円
3	○発表会の準備	1	○模造紙にまとめる
	○発表会	1	
	○反省	1	

年間実施計画について

計画をたてるための資料と、実験クラブが使用してよい施設・備品・薬品類・予算の概要を説明する。

(ア) 興味の対象が多様である場合は、○あまり高度でなく能力に合ったものかどうか考える ○共通の興味を追求し、集団で活動できるものかどうか考える ○共通な対象は、なるべくまとめる ○実験・生物・化学・理科工作などの班に分けられることも示唆する ○理科で学習することは避けるようにする

- (イ) やりたいことが、かち合ったり、割愛された場合は、○やることに順序性のあるものについては、それを納得させる ○今すぐ自分のやりたいことが、できなくてもいずれ、できるものだと希望をもたせる ○季節や天候のことも考えさせる
- (ウ) 興味の対象が具体的でない場合は ○昨年度の実践記録を利用する ○クラブ発表会のようすや、見学した時のことを想起させる ○教師は焦らずにじっくり調べさせたり、考えさせる。

以上の配慮により、上記の実施計画ができた。

ウ、題材の実施計画

- (ウ) 年間の活動の計画によって、いろいろな題材が取り上げられるが、その具体的な内容について共通理解が必要なので、その題材に入る前の時間の終りを使って、話し合いをして、実施計画をたてるようにする（長時間にわたるものは、話し合いにじゆう分時間をかける）

- (イ) 実施計画をたてる場合は、次の点に留意する

- 実験の内容を具体的に話し合って、興味関心を深めさせる
- その題材に何時間かけて、どんな順序でやるか決める
- 実験に要する施設・備品・薬品の準備の仕方を決める
- どんなグループで活動するかきめる（人数・係り）

エ、1単位時間の計画について

- (ウ) 何をどのようやるか、事前に話し合ってしっかりつかませる
- (イ) どんな器具・材料が必要か考える
- (ウ) 実験に要する時間を考える
- (ロ) 危険防止について配慮する

科学実験クラブ指導案

10月25日（火） 第5時

指導者 ○ ○ ○ ○

1. 本時の活動 石に塩酸をかけて調べる
2. ねらい みんなで協力して石に塩酸をかける実験をする
3. 実施計画および留意事項

実施計画	留意事項
1. 出欠席を調べる 2. 本時の活動について話し合う 3. 石に塩酸をかける実験をする 4. 前半の実験の結果と後半の実験について話し合う 5. 後半の実験をする 6. 実験の結果を話し合う 7. 本時の反省をして記録カードを書く 8. 来週の子定を話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岩石・薬品は前日までに当番のグループに準備させておく。 ○ 岩石は石灰岩の他いくつか用意させる ○ 稀塩酸の扱いに注意させる ○ グループごとに各自仕事を分担して協力するよう助言する ○ 火の扱いに注意させる ○ 来週だれがどんな準備をするか、はっきりさせる

4 評価 協力し合って楽しく実験できたか。

オ、実践の記録

活動記録		教師の助言指導
全体の流れ	観点による観察	
1. 部長の号令で挨拶。出欠席調べ (出席者には記録カードを配る) 2. 本時の活動について当番(2班)の説明を聞き話し合う(2班の4名は前に出て模造紙の図解を見せながら ①石に塩酸をかける実験 ②石灰炭に塩酸をかけて二酸化炭素をとり出してローソクの火を消す実験について説明) 3. ガラス器具や実験材料をグループに配る(各自分担してとりにいく) 4. ①の実験を各グループでする	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんならくに話していた ○ 公平に分担していた ○ 5年生が6年生に教わる場面は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稀塩酸は身体洋服につくといためるからこぼさない ○ 実験の作業はみんなが公平に分担して仲良くやる

<p>5. 実験の結果を全体で話し合う (2班司会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの石が変化したか <ul style="list-style-type: none"> ・Oの石から泡が出た ○石は何という石か <ul style="list-style-type: none"> ・石灰岩だと思ろ ○石灰炭ならばこの泡は何か <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素だと思ろ ○次に、この気体が二酸化炭素であるかどうか確かめる ②の実験をやる <p>6. 各グループは、フラスコやローソクを持って来て②の実験をする</p> <p>7. 実験の結果を各グループで発表し合う(気体の出るようすや気体がローソクの火を消すので二酸化炭素にちがいない、など)</p> <p>8. 本時の活動の反省をして記録カードに記入する</p> <p>9. 次時の予定を話し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○NとKは友だちに高圧的な態度だったが他は全員作業を分担協力していた ○ローソクの火が消えたとき歓声が出た ○全員楽しかったとカードに記入していた 	<ul style="list-style-type: none"> ○今度は、火を使うが、やけどなどしないように ○気体を逃さないように工夫する
--	---	---

カ、考案

- (ア) 前週の「結晶づくり」の事後調査で、IとYは「つまらなかった」と答えた。その理由は「友だちが顕微鏡をのぞかせてくれなかったから」であった。本時は教師が注意したので、全員仲良くできて「楽しかった」と答えている。こうした細かな点も教師は配慮してやる必要がある。
- (イ) 当番による事前準備をしたことで、本時の活動は能率的に行なわれ、児童の興味関心を満足させることができた。しかし、当番が1時間もかけて準備することには問題がある。義務づけによる活動はクラブの本質から考えて好ましくないし、当番の活動を観察しても、楽しいという表情は見られなかった。そこで、この準備も全員でクラブの時間に行なうような計画にしたい。
- (ウ) 題材が、理科の学習内容に近かったが、予想に反して「大変面白い」「大変楽しい」と全員が答えている。6年生は既に「石灰岩の見分け方」「二酸化炭素の性質」につ

いては学習しているのに「実験すること」が楽しいようである。従って題材を選ぶ場合は、理科学習と同じでは困るが、関連があっても児童がある程度の理解を持っているものの方が、興味関心が強く、実験の成功度も高いのでよいと思われる。

(イ) 薬品や器具の扱い方など危険防止についての助言はあったが、やや抽象的であったので徹底しない点があった。単に「注意しなさい」でなく、具体的に行動で示すなどして、扱い方を指示した方がよいのではないか。

(ロ) 経験のちがいで、実験器具のセットが正しくできないグループが見られたが図解だけでなく、実際に器具をセットしたものを示して、具体的にわからせてやる配慮が大切である。

キ、まとめ

(イ) 科学クラブにおける興味の対象は、多方面にわたる場合が多いので、実験・生物・気象観測クラブなどに分けることが運営を円滑にし、同時に児童の興味関心を満足させ、積極的に活動を促すことになろう。

(ロ) 「いろいろな実験をやってみたい」という欲求を持っていても「何を」「どのように」やるか、具体的なものは持っていない児童が大部分である。そこで実践例のように前時の簡単な話し合いで、概略をつかみ、あとの具体的計画と準備は当番がやる方法や、全員で参考書を調べたり、話し合ったりして、計画をたてるなど、工夫してやる必要がある。

3. まとめ

以上クラブ活動の指導計画と実施計画についてのべてみたが、クラブ活動における自発的自治的活動を育てていくためには、たえず変化していく児童の実態をつかみ、活動に即した教師の適切な指導がなければならない。

その学校の学校の実態から作成される全体の計画、各クラブの計画、実施計画を生き生きとしたものにするためには、活動開始前の入部指導を慎重に行ない、活動開始後は児童がスムーズに運営しやすいような体制を常に整えて指導にあたることである。

クラブ活動部会

部長 台東・浅草小 高橋 之子

副部長 江戸川・瑞江小 大場 宗一

品川・源氏前 志村 寿久

新宿・四谷六 岩園 敏明

杉並・荻窪小 鈴木 一敬

本年の研究をふりかえって

専門部長 世田谷区立山崎小学校教頭 奥田 勉

戦後の入試準備教育，教科偏重など，積年の弊害排除のため，教育の正常化がさげばれている。

特活は，人間形成の場として，重視すべき領域なのに，無関心やマンネリにおちいつてはいないか。児童の自発性を尊重し，自治活動の実践を積み重ね，自主的態度を育てるため，学級，学校社会の問題解決の危機場面にとりくみ，主体的に克服してこそ，児童の人間的成長がある。特活の特別の意味をふまえ，本質にせまる内容の明確化が本年度研究の傾向である。三つの専門部は，ここに焦点をあて，現場の実践をたしかめ，問題点を解明しながら，昨年度の研究を引続き深めてきた。そのまとめとして，指導計画，実施計画の事例集，第3集の生れたことを喜んでいる。

現場の実践であり，多忙をさいての研究である。日々の実践に，いくらかでも役にたちますなら嬉しいです。活用いただき，忌憚のないご批評をいただけますなら幸いです。おわりに，研究のため，鋭意，ご努力願った方々の熱意に心から敬意と謝意を表します。